

第十五條 天災地變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ市町村長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ事業カ宮内省、國又ハ道府縣ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣、主務大臣又ハ道廳長官府縣知事ハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ市町村長ニ通知スヘシ

前二項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス
軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ市町村長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ市町村長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ市町村長ニ申請スヘシ

第十七條 市町村長カ認定ヲ爲シタルトキ又ハ第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

市町村長カ第十五條第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内務大臣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

◎土地收用細目公告期間ニ關スル件 (明治三十四年六月二十五日乙第五) 四二
七號福岡縣知事宛土木局長回答

◎土地收用細目公告ヲ爲スヘキ期間ノ件

(大正三年八月十日發土第二七號東) 四三
京土木出張所長宛土木局長通牒

第四章 收用ノ手續

第十九條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告、又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

◎事業ノ認定ヲ爲シタル土地ヲ更ニ認定シタル場合ニ於ケル土地收用法第十九條ノ取扱ニ關スル件 (大正二年七月二十二) 四三
日内務省々議決定

◎土地細目公告後收用ノ不必要ニ至リタル場合ニ於ケル取扱方ノ件 (明治三十三年九月四日乙第一〇) 四四
二號福岡縣知事宛土木局長通牒

第十九條ノ二 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ土地所有者及關係人ハ事業ニ支障ヲ及ホス虞ナキ場合ヲ除クノ外行政廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收去スルコトヲ得ス

第二十條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

トヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ土地所有者及關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調書ヲ作ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調書ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキ其ノ他之ト共ニ調書ヲ作ルコト能ハサルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルヘシ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地方長官立會人ヲ指定スヘシ

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタル調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

◎土地收用ニ依ル事務分掌ノ件

(大正八年五月九日發土第五六) 四四
(號各地方長官宛土木局長通牒)

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ
前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコト

ヲ得

◎土地所有者不明ノ場合ニ於ケル協議其ノ他ノ件

(明治四十二年七月二日特甲第一) 四五
(七號京都府知事宛土木局長回答)

◎土地所有者不明ノ場合ニ於ケル協議ノ件

(大正七年十一月十九日甲第一一三) 四六
(四號大阪府知事宛土木局長回答)

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求ムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地

方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目

收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場

合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

三 第二十一條ノ規定ニ依ル土地物件ニ關スル調書又ハ其ノ寫

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村長ニ送付スヘシ但シ同條第一項第三號ノ調書ハ此ノ限ニ在ラス

市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク公告ヲ爲シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條從覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

◎收用審査會開會期日ノ件(大正七年十月二十一日發土第一五)四七
(○號各地方長官宛土木局長通牒)

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

◎土地收用法ニ關スル件(明治三十三年四月十九)四七
(日內務省訓令第九號)

◎土地收用法第三十二條ニ關スル件(明治四十一年五月十八日土甲第二)四八
(三號神奈川縣知事宛土木局長回答)

第三十三條 市町村長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第二項若ハ第四項ノ通知ヲ受ケタル時ハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條

モノトス

收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲ス

一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域

二 損失ノ補償

三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

◎收用審査會裁決事項ニ關スル件

(明治三十四年五月一日土甲第二) 四八
號各地方長官宛土木局長通牒

◎土地收用法ニ依ル訴願又ハ行政訴訟ノ辨明書又ハ答辨書作製ニ關スル件

(明治四十一年六月二十七日土甲第一) 四九
三二號各地方長官宛土木局長通牒

第三十六條

收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條

會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

◎收用審査會長代理ニ關スル件

(明治三十三年九月一日新) 四九
湯縣知事宛土木局長回答

第三十八條

季員ハ高等文官及道府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ道府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條

收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條

委員カ起業者、土地所有者若クハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若クハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戶主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若クハ關係人タル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監查役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一 道府縣名譽職參事會員

二 道府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 道府縣會議員

第四十一條

收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立テタル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

◎第四十一條申立ノ範圍ニ關スル件

(明治三十七年四月十一日甲第三) 四九
三號福岡縣知事宛土木局長回答

◎土地所有者ノ申立ナキ場合ニ於ケル裁決ノ範圍ニ關スル件

(明治四十四年八月十七日福
鳥縣知事宛土木局長回答) 五〇

第四十二條

收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條

收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ニ掲クル者以外ノ者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

◎土地所有者及關係人呼出ノ場合ニ於ケル費用其他ニ關スル件

(明治三十六年二月十八日富
山縣知事宛土木局長回答) 五一

第四十四條

裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ
裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

◎收用審査會裁決書中土地所有者住所誤記ノ場合取扱方ノ件

(明治四十四年八月二十六日甲第一) 五四
七號千葉縣知事宛土木局長回答

第四十五條

鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條

二府縣以上ニ涉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

◎土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件

(明治三十三年三月三十) 五四
一日勅令第一〇一號

第六章 損失ノ補償

第四十七條

土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此限ニ在ラス

第四十八條

收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ
使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條

土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條

土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條

收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニアラサレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其

ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

◎土地收用法第五十一條適用ニ關スル件

(大正八年十一月十九日甲第一一三) 四五
四號愛知縣知事宛土木局長回答

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スル時ハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用力三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ

及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ効果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

- 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 三 起業者カ收者審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
- 四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但

- シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
- 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ効力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

◎河川法ニ依リ河川ノ敷地ト認定セラレタル土地及土地收用法ニ依リ收用セラレタル土地ノ分割並土地臺帳更正ニ關スル件

(大正三年九月十日發土第二六號各地方) 五六
長官土木出張所長宛土木局長通牒

◎收用審査會裁決取消ノ場合ニ於ケル土地所有權移轉ニ關スル件

(明治四十二年十二月東丙第二五) 五六
二號東京府知事宛土木局長通牒

第六十四條

收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條

先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條

收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受クルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非ラサレハ之ヲ買受クルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス

第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

◎協議買收ニ依ル土地ノ買戻權ニ關スル件

(明治四十五年四月三十日土第一二) 五七
八七號各地方長官宛土木局長通牒

第六十七條

前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ
第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

◎土地收用法第六十九條ニヨリテ發スル命令ノ件 (明治三十三年三月三十) 五八
一日勅令第一〇二號

◎收用審査委員旅費ニ關スル件 (明治三十三年五月十一日乙發第一) 五九
○號各地方長官宛土木局長通牒

◎土地收用審査委員旅費支給ノ件 (大正元年九月五日地第三六九號岡) 五九
山縣知事宛土木、地方兩局長回答

◎收用審査會ニ要スル書記任命ノ件 (明治三十三年五月二十五日乙第六) 六〇
四號千葉縣知事宛土木局長回答

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス
府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ超エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ミナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 第九條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知アリタルコトヲ知リタル者第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十七條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第七十九條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第八十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十章 訴願及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三ヶ月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス
前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス
第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附 則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

◎土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件

(明治三十三年三月三十日勅令第一〇三號)六一

◎公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分

等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件 (明治三十三年五月十八日內務省訓令第五二五號) 六二

◎同上ノ件 (明治三十三年五月十八日內務大臣通知房庶甲第一三三號) 六三

◎公用土地買上規則ニ依リ買上ケタル土地ノ買戻ニ關スル件

第八十六條 第十五條乃至第十七條及第三十三條ノ規定ニ依リ町村長ノ爲スヘキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長之ヲ行フ

(大正五年五月三日丘土第五八) 六三
(號福岡縣知事宛土木局長回答)

本法ニ依リ町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ
第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和二年四月 法律第三九號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年八月二十六日勅令第二百七十二) 號ヲ以テ昭和二年九月十五日ヨリ施行ス

大正十五年法律第七十八號ハ之ヲ廢止ス
本法施行前收用審査會ノ裁決ヲ求メタル收用又ハ使用ニ付テハ第四十三條ノ規定ヲ除クノ外仍從前ノ例ニ依ル但シ第三十五條第二項ノ規定ニ依リ却下ノ裁決アリタルモノニ付テハ其ノ裁決ニ對シ訴願訴訟ヲ爲ス場合ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラス
本法施行前從前ノ第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサル者ハ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ同條ノ罰金ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

◎土地收用法施行令

(明治三十三年三月三) 改 (昭和二年八月二十七) 正 (日勅令第二七三號)

第一條 土地收用法第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ
障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携帯スヘシ

◎内務省ノ起業ニ係ル土木事業ニ關シ携帯スル證票雛形ノ件

(大正三年一月十六日) 六五
(内務省告示第七號)

第三條 起業者カ内務大臣ノ認定ヲ受ケントスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

- 一 御料地及皇族所有地
 - 二 國有地
 - 三 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地
 - 四 寺院境内地
 - 五 名所、舊蹟及古墳墓
- 前項ニ規定スル調書ニハ其ノ土地ヲ起業地ニ編入スルニ付土地管理者ノ意見ヲ記載スヘシ

◎土地收用法ニ依リ收用セラルヘキ土地及内務大臣ノ許可ヲ要スヘキ工事ニシテ〔社〕寺境内地ニ關係スルモノハ其ノ調書見取圖添付ノ件

(明治二十七年十二月十三日社甲第) 六五
(八〇號各地方長官宛社寺局長通牒)

◎土地收用法ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場合ニ關スル件

(明治三十五年七月三十日) 六五
(日内務省訓令第一四號)

◎町村共同墓地收用ニ關スル件 (明治四十三年十一月十七日甲第一) 六六

(〇七號東京府知事宛土木局長回答)

◎公共ノ利益トル爲ヘキ事業ニ供スル土地ニ對シ土地收用事業認定ノ件

(大正六年九月京土第七六號) 六七
(京都府知事宛土木局長照會)

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依ル調書ハ土地調書及物件調書トス

土地調書ニハ收用又ハ使用セントスル土地ニ付左ノ事項ヲ記載シ實測平面圖ヲ添附スヘシ

一 土地所在ノ郡、市、區、町村及字、土地ノ番號、地目及面積竝ニ土地所有者ノ名及住所

二 收用又ハ使用セントスル土地ノ面積

三 土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所竝ニ其ノ權利ノ種類及内容

四 調書ヲ作りタル年月日

五 其ノ他必要ナル事項

物件調書ニハ收用若ハ使用又ハ移轉セントスル物件ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 物件ノ在ル土地所在ノ郡、市、區、町村及字竝ニ土地ノ番號及地目

二 物件ノ種類及數量竝ニ其ノ所有者ノ名及住所

三 物件ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所竝ニ其ノ權利ノ種類及内容

四 調書ヲ作りタル年月日

五 其ノ他必要ナル事項

物件カ建物ナル場合ニ在リテハ物件調書ニハ前項ニ掲クルモノノ外建物ノ種類ニ區別シ其ノ構造及建坪ヲ記載シ實測平面圖ヲ添附スヘシ

土地收用法第七條ノ規定ニ依リ權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調書ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル

土地收用法第七條ノ二ノ規定ニ依リ物件ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調書ニ關シテハ第三項及第四項ノ例ニ依ル

調書ニハ調書ヲ作りタル起業者、土地所有者及及關係人記名捺印スヘシ立會人アルトキハ立會人モ亦之ニ記名捺印スヘシ

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

一 工事ノ種類

二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目

三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係

本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

ル所ニ依ル

高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ鐵道賃及船賃ハ二等以下ノ運賃ニ於テ、車馬賃（汽船ヲ通セサル水路ノ船賃ヲ含ム）ハ一里ニ付七十五錢以下ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日二圓乃至十圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 土地收用法第十九條ノ二及第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置其ノ他輕易ナル事項ニ關シテハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ委任スルコトヲ得

第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和二年八月)

本令ハ昭和二年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和二年八月... 則 (昭和二年八月) 勅令第二七三號... 本令ハ昭和二年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

◎電氣事業法ノ準用ヲ受ケタル事業ニ對シ土地收用法適用

二關スル件 (大正八年二月二十八日發第四〇號各地方長官宛土木局長通牒)

明治四十四年勅令第二百三十七號ニ依リ電氣事業法ノ準用認定ヲ受ケタル事業ニ對シ往々土地收用法ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用シ得ルモノトシテ事業認定申請書御進達ノ向モ有之候處右準用認定ハ單ニ當該事業ニ付電氣事業法ノ準用ヲ許スニ止マリ之ヲ土地收用法ノ適用ヲ許スヘキ事業トスルノ義ニハ無之候條御了知相成度爲念通牒候也

◎索道設置ニ關シ土地收用法適用ノ件 (明治四十四年十月二十六日閣議申)

京都市長ヨリ砂利運搬用鐵索道設置ニ要スル土地使用ノ件管轄知事ヲ經由シ別入ノ通申請セリ依テ審査スルニ右ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニシテ土地收用法第二條第四號ニ該當スルモノナルヲ以テ同法ニ依リ土地ヲ使用スルコトヲ得ルモノト認定セラレムコトヲ欲ス

◎特定ノ會社ニ電力ノ供給ヲ目的トスル事業認定ニ關スル

件 (大正七年六月六日長土第三一號長野縣知事宛土木局長通牒)

五月二十九日附土甲收第一五八六號御進達標記ノ件御副申ノ次第モ有之候へ共右申請ノ電氣裝置事業ハ特定ノ會社ニ電力ヲ供給スルヲ目的トスルモノナルカ故ニ公共ノ有益ト爲ルヘキ事業ト認メ難ク從テ土

地收用法ヲ適用シ難キモノト認メラレ候ニ付書類及返戻候條御再考相成度候

◎住宅建設ニ要スル土地收用ノ件(大正九年二月十八日發土第七號各地方長官宛土木局長通牒)

府縣〔郡〕市町村其ノ他公共團體ニ於テ住宅ノ不足ヲ補フ爲住宅ヲ經營スルハ其ノ事業ノ計畫如何ニ依テハ土地收用法身二條第五號ニ該當スル事業トシテ之ニ要スル土地ハ同法ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ルモノト御了承相成度爲念此段及通牒候也

◎耕地整理事業トシテ施行スル用惡水路工事ニ關シ土地收用法適用ノ件(明治四十三年四月土第六二七號)

用法適用ノ件(和歌山縣知事宛土木局長回答)

本年二月八日內五發第八百三十三號ヲ以テ農商務省農務局長宛御照會ニ係ル耕地整理ニ關シ土地收用法適用ノ件右ハ當省主管ノ事項ニ付同省ヨリ移牒相成候處用惡水路ノ新設若ハ擴張ニ關シテハ耕地整理施行ニ起因スルト否トヲ問ハス土地收用法ヲ適用シ得ル義ト存候此段及回答候也

和歌山縣知事伺(明治四十三年二月八日內五發第八三三號)

耕地整理法ニ基キ耕地整理組合ヲ設ケ整理ノ施行ヲ爲サムトスルニ當リ地區外ニ惡水路新設及舊水路斷面ノ擴張ヲ要シ候ニ付組合設立認可申請者ハ其水路用地ヲ買收セムトシ所有者タルニケ村及其他私人ニ對シ協議ヲ爲シタルニ内一ケ村已ニ之カ買收ノ承諾ヲ爲シタルモ他ノ一ケ村及私人所有者ハ之カ買收ノ承諾ヲ爲サス右ハ耕地整理法第五十條ニ依リ組合地區内ハ強制編入ヲ爲シ得ル途モ有之候ヘ共

普通ノ強制編入トハ其性質ヲ異ニセルノミナラス其不同意者ヲ耕地整理組合員ト爲スハ組合ノ事業ニ營上危懼ヲ抱ク嫌有之已ムヲ得ス收用ノ必要相認メ候處右ハ土地收用法ヲ適用シ得ヘキ義ト被存候ヘ共爲念御高見承知致度候間至急何分ノ御回示相煩度候

◎土地收用法上關係人ノ意義ニ關スル件

(明治四十五年五月二日土第一六二六號東京土木出張所長宛土木局長回答)

客月二十二日附收第四百六十八號ヲ以テ土地收用法上ニ所謂關係人ノ意義ニ付御照會相成候處右ハ物權タルト債權タルトヲ問ハス土地ニ關シ權利ヲ有スル者ヲ總稱スルモノト解スルヲ妥當ト被存候ヘ共其權利ニ付登記ヲ經タルモノニ非サレハ起業者ニ對抗スルヲ得サル義ト存シ候此段及回答候也

東京土木出張所長伺(明治四十五年四月二十二日收第四六八號)

土地收用法上關係人ノ意義ハ同法第五條ノ明示スル所ニ有之所謂土地ニ關シテ權利ヲ有スル者トハ本所從來ノ取扱トシテハ不動産登記法ニ基キ登記シタル權利者ノミ之ヲ關係人ト爲シ土地ノ賃借人(登記セサルモノ)ノ如キハ解決上其範圍外ニ在ルモノト認メ居候處近來動モスレハ之ヲ廣義ニ解シ苟モ土地ニ關シ權利ヲ有スルモノハ登記ノ有無ニ關セス總テ之ヲ包含スルモノナリト主張スルモノ有之取扱上疑義ニ涉候條目下差懸ノ事件モ有之至急何分ノ御回答ヲ煩ハシ度此段及照會候也

◎土地收用法上ノ關係人ニ關スル件

(昭和二年九月二日一五農土第一四號道廳長官各府縣知事各土木出張所長宛土木局長通牒)

土地收用法第五條ニ規定スル關係人ノ收用又ハ使用スヘキ土地若ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シ權利ヲ有
スル總テノ者ヲ指稱シ其ノ權利ニ付登記ヲ爲シタルト否トヲ問ハサルコトニ省議決定候條爲念及通牒候

◎土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件(明治三十三年三月三十日勅令第一〇〇號)

- 第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス
- 第二條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス
- 第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス
- 第四條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了ス
- 第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス
- 週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス

第六條 土地收用法第十八條、第二十五條及第三十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル場合ニ於テハ其ノ遞送ニ要スル日時ヲ算入セス

第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ内務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セサル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコトヲ得

第九條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十條 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス

第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラス

法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

組合ニシテ業務執行者ヲ定メサル場合ニ於テハ送達ハ其ノ組合員ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 現役及召集中ノ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス

第十五條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住所又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近隣ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セス又ハ受領スルコト能ハサルトキハ其ノ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場所及年月日時ヲ記載セル受領書ヲ交付スヘシ
前項ノ受領證ヲ交付セス又ハ交付スルコト能ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 訴願及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴願法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎土地收用ノ認定ヲ受ケタル事業ノ爲地上權等收用ニ關スル件

(明治四十五年六月十日 五日内務省々議決定)

土地收用法ニ依リ土地ヲ收用スルコトヲ得ルモノト認定セラレタル事業ノ起業者カ同法第二十二條ニ依リ土地所有者ニ協議ヲ爲シ土地ノ所有權ヲ買受ケタルモ其土地ニ關シ登記シタル地上權者又ハ賃借權者アリテ協議ノ調ハサル場合ニ於テハ其權利收用ニ關シ更ニ内閣ノ認定ヲ受ケサルモ直ニ收用審査會ニ對シ裁決ヲ申請シ得ルモノト決定相成可然乎(決定)

◎公有水面埋立免許權收用ニ關スル件

(明治三十三年九月十三日 丘甲第一 九二號 岡縣知事宛土木局長回答)
本年八月二十日發二第百四十八號ヲ以テ土地收用法適用ノ件御伺出相成候處公有水面埋立ノ出願ニ對シ

行政廳ノ與フル免許ハ單ニ埋立工事ナル一ノ行爲ヲ爲スコトヲ特定ノ人ニ特許スルモノニシテ被免許人ハ其ノ工事成功ノ上ニ於テ埋立地ノ幾分ノ所有權ヲ取得スヘキ一ノ希望ヲ有スルニ止マリ決シテ其ノ免許ニ依リ直ニ物件類似ノ私權ヲ取得シタルモノニアラス隨テ其免許權ナルモノハ收用ノ目的トナリ得ヘキモノニ無之ト存候條右様御承知相成度依命此段及通牒候也

福岡縣知事伺(明治三十二年八月二日發第一四八號)

鐵道敷設ノ爲メ土地收用法ニ依リ内閣ニ於テ工事認定ノ區域中公有水面埋立免許ヲ爲シタル箇所有之右ハ一旦埋立免許權ヲ得タル以上ハ多少ノ費用ヲ要シ居候義ニ付無償ヲ以テ返還セシムヘキ理由無之ノミナラス免許命令ノ上ニ於テモ何等條項無之ヲ以テ取消處分等難相成又之ヲ此儘放任スルトキハ協議ハ何時マテモ整ハサルヲ以テ爲メニ全線路ノ事業ヲ遲滯セシムル義ニ有之候條土地收用法ノ規定ヲ適用シ可然哉目下差懸リタル義有之折返シ御指揮相成度此段相伺候也

◎土地收用法ニ依ル事務處理方法ニ關スル件

(大正六年十一月十二日發土第九號各地方長官宛土木局長通牒)

土地收用法ニ依ル事業認定ニ關スル申請書ニ對シテハ從來訓令通牒等ニ基キ夫々處理相成候事ト存候得共尙書類ノ不備訂正ニ屢々照覆ヲ要スル向モ有之事務ノ進捗ヲ阻害スルコト不尠候ニ付爾今左記方法ニ

依リ處理相成度

記

- 一 事業認定申請書ニ添附スヘキ事業計畫書ハ其ノ事業ノ要領ヲ知り得ヘキ程度ニ作製セシムルコト但シ官廳ノ許可若ハ認可ヲ受ケタル事業ニ在リテハ其ノ許可若ハ認可ノ際提出シタル計畫書ト同様ノモノヲ添附スルモ妨ケナキコト
- 二 事業認定申請書ニ添附スヘキ圖面ハ平面圖トシ別ニ縱橫斷ノ圖面ヲ必要トセサルコト但シ特別ノ必要アルモノ又ハ審査上平面圖以外ノ圖面添付ヲ便宜トナストキハ此限ニ在ラサルコト
- 三 事業認定申請書ニ添附スヘキ平面圖(縮尺隨意ナルモ過少ナルモノ及長大ナルモノニ在リテハ別ニ見取圖ヲ添附スルコト)ニハ收用又ハ使用ヲ要スル土地ノ區域並附近ノ地形ヲ表示セシメ且事業地ニ於ケル府縣郡市區町村名(市ニ在リテハ何町、何丁目迄)及其ノ境界線並要塞地帶、道路、河川、港灣、鐵道、軌道其ノ他公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供シタル土地トノ關係等ヲ記載セシムルコト但シ國道、府縣道、河川法施行ノ河川、河川法準用ノ河川、流域二府縣以上ニ跨ル河川及大正元年十一月内務省訓令第二十五號ニ依ル本省大臣指定ノ港灣ニ關係アル場合ハ特ニ其ノ區別ヲ記入セシムルコト
- 四 土地收用法第十四條ニ依ル公告事項ヲ別紙様式ニ依リ記載シ添附スルコト
- 五 同一ノ事業ニ付同時ニ土地ヲ收用及使用セントスルトキハ事業認定申請書ニ添附スヘキ平面圖ニ收用及使用ノ區域ヲ表示セシムルコト
- 六 土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ニ關スル事業認定申請書ニハ平面圖ニ收用又ハ使用

ノ區域ヲ表示セシムルコト

七 電氣、瓦斯等ニ關スル事業認定申請書ニハ其ノ用途、供給區域等ヲ記載セシムルコト

八 鐵道、軌道其ノ他工事施行ニ關シ官廳ノ許可若ハ認可ヲ要スル事業ニ在リテハ其ノ許可若ハ認可ヲ得タル後ニ於テ事業認定ノ申請ヲ爲サシムルコト仍其ノ申請書ニハ官廳ノ許可若ハ認可ノ年月日ヲ記載セシムルコト

九 土地收用法施行令第三條ノ土地ニ關スル調書中ニハ特ニ同法第一號第四號及第五號ニ該當スル土地ニ付キテハ各地目毎ニ其ノ坪數又ハ長、幅ヲ記載セシムルコト

十 土地收用法施行令第三條ノ土地ニ關シテハ該令ニ依ル圖面以外其ノ土地ノ位置ヲ知ルニ足ルヘキ(調書記載ノ各地目ト照合スヘキ符號ヲ記入スルコト)平面圖ヲ添附セシムルコト但シ事業認定申請書添附ノ圖面ヲ兼用シ得ルコト

十一 土地收用法施行令第三條ノ土地ニ關シテハ所管官廳(但シ神社ニ在リテハ管理者寺院ニ在リテハ住職及檀信徒總代連署墓地及公園ニ在リテハ其ノ管理者)ノ意見書並之ニ對スル貴官ノ意見書ヲ添付スルコト但シ道路、堤塘、惡水路等ノ變更廢止ノ如キ貴官限リ處分セラルヘキモノハ其ノ要領ヲ記載スルコト

十二 起業地内ニ土地收用法施行令第三條ノ土地以外ニ於テ現ニ公共ノ利益トナルヘキ事業(土地收用法第二條ニ該當スル事業)ニ供セラルル土地アルトキハ之ニ付交渉ノ顛末ヲ記載スルコト

十三 國ノ事業ニシテ土地收用法施行令第三條ノ土地ニ關シ貴官ヘ協議アリタル場合ハ之ニ回答ト同時

ニ第十一號ト同様ノ意見書ヲ添附シ協議ノ顛末ヲ當省ニ報告セラルルコト

官報公告

起業者 何縣何郡何市町村又ハ會社ノ類

事業ノ種類 河川改修、下水新設、學校建設、軌道敷設ノ類

起業地 何縣何郡何市町村地内

備考 起業地市内ニ係ルモノハ何郡何町地内又ハ何町何丁目地内ト記スコト
起業地名ニ付テハ後日正誤ノ申請ナキ様特ニ注意スルコト

◎土地收用法ニ依ル事業ノ協議ニ關スル件

(大正八年十一月五日發土第一五)
(四號各省次官宛內務次官通牒)

客年十一月當省發土第九十六號通牒ヲ以テ土地收用法ニ依ル事業認定御協議ノ場合ニ於テハ同法施行令第三條ノ土地又ハ現ニ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セラルル土地ニ付當該關係廳等ト協議又ハ交渉ノ顛末書ヲ添附セラルルコトニ照會致置候處自今右ハ協議又ハ交渉ノ顛末書ニ代ヘ協議又ハ交渉ニ關スル圖書ノ寫ヲ御添付相成度

追テ他ノ關係ニ基ク地方長官トノ協議ヲ以テ土地收用協議ニ當テラルル場合ニ於テハ地方長官ヘ協議ノ際其ノ旨特ニ御示シ置相成度

◎土地收用ニ依ル事務處理方法ニ關スル件

(大正八年十一月五日發土第一五) 四號各地方長官宛土木局長通牒

客年十一月當省發土第九十六號通牒第十三號ノ意見書並協議顛末書ハ自今御進達ニ不及候

◎土地收用細目公告期間ニ關スル件

(明治三十四年六月二十五日乙第五) 七號福岡縣知事宛土木局長回答

本年六月二十日發二第二〇三號ヲ以テ土地收用法中疑義ノ廉御照會ノ件了承右ハ第十八條ノ期間内幾回ニテモ第十九條ノ手續ヲ爲スコトヲ得ヘキ義ニ有之候此段及回答候也

福岡縣知事伺 (明治三十四年六月二十日發二第二〇三號)

土地收用法第十九條ニ依リ土地細目ノ公告ヲ申請シ遂ニ一ケ年内ニ於テ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルニ至ラス該公告ハ無効ニ屬スルヲ以テ更ニ第十八條ノ期間アルヲ以テ再ヒ第十九條ノ申請ヲ爲スモノアリ右ハ内閣ニ於テ事業認定ノ後ハ假令第十八條ノ期間内ト雖モ再ヒ同一ノ土地ニ對シ第十九條ノ手續ヲ爲シ得ヘキモノニ無之義ニ候哉將タ第十八條ノ期間内ハ幾回ニテモ第十九條ノ手續ヲ爲シ得ヘキ義ニ候哉疑

義相生シ候條御意見承知致度此段及御照會候也

◎土地收用細目公告ヲ爲スヘキ期間ノ件

(大正三年八月十日發土第二七號東) 京土木出張所長宛土木局長通牒

標記ノ件ニ付七月六日發第五三二號御上申ノ次第モ有之候處事業認定公告後三ケ年内ニ爲シタル收用地細目公告ノ失効ニ至ラサル間ハ當初ノ事業認定モ其ノ效力ヲ失ハサルヲ以テ其ノ間更ニ收用地細目ノ公告ヲ求ムル必要アルトキハ重テ内閣ノ認定ヲ受クルヲ要セス直ニ公告方要求相成可然

東京土木出張所長申請 (大正三年七月六日發第五三二號)

荒川改修工事所要ノ土地ハ明治四十四年六月二十八日内閣ノ認定ヲ受ケタルモノニ有之候處土地收用法第十八條ニ依リ本年六月應當日ニ於テ其效力ヲ喪失シタルモノト認メラレ候ニ付更ニ未承諾ノ土地ニ對シ收用致度候條内閣ニ於テ認定公告相成候様御詮議相成度此段上申候也

◎事業ノ認定ヲ爲シタル土地ヲ更ニ認定シタル場合ニ於ケ

ル土地收用法第十九條ノ取扱ニ關スル件

(大正二年七月二十二日) 内務省々議決定

土地收用法ニ依リ甲官廳ノ事業ニ供スル爲收用シタル土地ヲ更ニ乙官廳ノ他ノ事業ニ供スル爲内閣ノ認

定ヲ受ケタル場合ニ於テハ同法第十九條ノ手續ヲ要セサルヤ否ヤニ付問合ノ向モ有之候處右ハ其手續ヲ要セサルモノト決定相成可然哉(決定)

◎土地細目公告後收用ノ不必要ニ至リタル場合ニ於ケル取

扱方ノ件 (明治三十三年九月四日乙第一〇) (二號福岡縣知事宛土木局長通牒)

土地收用法第十九條ニ依リ土地ノ細目ヲ公告シタル後工事計畫ノ變更ニ依リ收用ノ不必要ニ至リタル土地ノ件ニ關シ客月八日收二第七百五十二號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ公告ヲ取消シ又土地收用法施行令第十條ノ手續ヲ履行スル方充當ト存候此段及回答候也

福岡縣知事伺 (明治三十三年八月七日收二第七五二號)

土地收用法第十九條ニ依リ土地ノ細目ヲ公告シ而シテ其ノ一部ノ土地工地上收用ノ必要ナキトキ事業ノ廢止又ハ變更ト云フマデノモノニ無之トキハ別ニ公告ノ取消ヲ爲サス又同法施行令第十條ノ手續ヲ爲スニ及ハサル義ト心得可然哉此段及御照會候也

◎土地收用ニ依ル事務分掌ノ件 (大正八年五月九日發土第五六) (號各地方長官宛土木局長牒)

土地收用ニ關シ起業者タル當該官廳ノ事務中土地收用法第十三條第二項ノ協議ヲ除ク外之ヲ其ノ所屬官

吏(鐵道院管理局長、同事務所長、內務省土木出張所長等ノ如キ)ニ分掌セシメタル場合ニ於テハ事務簡捷上後者ノ名義ヲ以テ其ノ事務ヲ處理セシメ支障無之旨今般關係廳へ通牒相成候條御了相成度

◎土地所有者不明ノ場合ニ於ケル協議其ノ他ノ件

(明治四十二年七月二日特甲第一) (七號京都府知事宛土木局長回答)

本年六月二十二日土第七六四九號ヲ以テ土地收用法ニ關シ疑義ノ廉伺出相成候處

第一項 御意見ノ通ニテ可然存候

第二項 收用審査會ニ於テ起業者ノ申立不當ト認メタルトキハ假令ヒ土地所有者及關係人ニ於テ土地收用法第二十五條ニ依ル意見書ヲ提出セサル場合ト雖モ同會ノ信スル所ニ從ヒ起業者ノ申請額ヲ超過裁決シ得ル義ト存候

右及回答候也

京都府知事伺 (明治四十二年六月二十日土第七六四九號)

一 今般京阪電氣鐵道株式會社ニ於テ軌道敷設用地トシ收用スヘキ土地ノ内紀伊郡深草村大字深草小字ススハキ三十九番地ハ土地臺帳ニ所有者善明院ト登錄セラレアルモ善明院ト稱スル寺院無之ニヨリ買收協議ヲ爲ス不能ヲ以テ收用上手續指示相成度旨該會社出願ニヨリ租稅代納人山上忠磨ナル者ニ就キ

事實調査ヲ遂ケ候處該寺院ハ維新ノ際廢寺處分ヲ受ケタル旨ヲ以テ別紙ノ通證明書及證據書類ヲ提出候ニ付調査スルモ廢寺處分案ハ不分明ニ候得共要スルニ土地臺帳ニ登錄有ル以上ハ土地收用法第二十二條第二項後段即チ協議ヲ爲スコト能ハサルトキノ明文ニ基キ本府收用審査會ノ裁決ヲ求メシメ而シテ審査會ハ土地臺帳記名者ニ對シ裁決ヲ爲シ補償金ハ同法第六十條第二號ニ依リ供託セシメ可然哉

二 收用審査會ニ於テ補償金ノ裁決ヲ爲スニ際シ用地所有者ノ關係人カ收用法第二十五條ニ依ル意見書ヲ提出セサルトキハ同法第四十一條ニ定マル範圍ナルモノハ起業者申請額ニ止リ被收用者ニ對スル範圍ナキヲ以テ此場合ニ在テハ被收用者ニ於テハ自己ノ權利ヲ拋棄シタルモノト認メ起業者申請額通裁決ヲ爲ス外途無之義ト思料候得共他府縣ニ對シ右ニ反スル貴省ノ御注意有之趣承知致候果シテ然ラハ右等ノ場合ハ起業者申請額ニ對シ増加裁決シ得ヘキ義ニ有之候哉

右二項疑義相生シ目下差懸リ居候件有之候條折返何分ノ御指押相成度此段相伺候也

◎土地所有者不明ノ場合ニ於ケル協議ノ件

(大正七年十一月十九日甲第一一三號大阪府知事宛土木局長回答)

八月二十四日土第七六四九號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處收用スヘキ土地ノ所有者カ死亡シ遺產相續ニ關シ係爭中ナル場合ニ於テモ民法第九百九十四條以下及同第一千一百一十一條ニ依リ相續者アルヘキ筈ニ有之義所有權ニ關シ係爭中ナル場合ニ於テモ所有者ハ客觀的ニ存在スルモノナルヲ以テ以上何レノ場合ニ於テモ起業者ハ所有者ヲ指定スルコトヲ要シ(土地收用法第二十三條參照)指定シタル所有者ト協議ヲ爲スヘキモノニ有之候

◎收用審査會開會期日ノ件 (大正七年十月二十一日發土第一五號各地方長官宛土木局長通牒)

土地收用法ニ依ル收用審査會ハ遲滯ナク開會相成居候次第トハ存候ヘ共客年二月二十三日丙第四十六號本官照會ニ對スル各地方長官ノ報告ニ依レハ著シク開會ノ遲延シタル向モ勘カラスシテ法定期間經過後二週間以内ニ開會セラレタルモノノ如キハ總件數ノ約三分ノ一ニ過キス之カ爲公共起業ノ進捗ヲ阻礙スル結果ト相成候テハ遺憾ノ次第ニ候條事情ノ許ス限リ至急開會相成候様御配意相成度爲念及通牒候也

追テ客年五月二十六日受土第一四八八號收用審査會開會期日ノ件回答ニ依レハ從來縱覽期間經過後二日目ニ開會スル御取扱ノ趣ニ候處右ハ土地收用法第二十六條ノ規定ニ違背スル次第ニ付御注意相成度

◎土地收用法ニ關スル件 (明治三十三年四月十九日內務省訓令第九號)

改(明治四十年同第九號)
正(大正元年同第二四號)

第一條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與フル場合ニ於テ其起業地内ニ土地收用法施行令第三條ニ掲ケタル土地アルトキハ本大臣ニ稟示ノ上處分スヘシ

第二條 以下(大正元年十一月內務省訓令第二十四號ニ依リ刪除)

◎土地收用法第三十二條ニ關スル件(明治四十一年五月十八日土甲第二三號神奈川縣知事宛土木局長回答)

横濱鐵道株式會社ノ起業ニ係ル延長線敷設事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事施行ニ關シ土地收用法適用方疑義ノ件ニ付本年四月十七日往乙第一八七三號ヲ以テ御照會相成候處右ハ土地收用法第三十二條ニ依リ許可ヲ與ヘラレ可然ト存候此段及回答候也

神奈川縣知事伺(明治四十一年四月十七日往乙第一八七三號)

横濱鐵道株式會社ハ延長線敷設ノ爲土地收用ノ義ニ付客年五月十七日內閣ノ認定ヲ得候處右事業ノ施行ニ依リ京濱電氣鐵道株式會社ノ軌道ヲ改築スルノ必要ヲ生シ此ノ改築ノ爲軌道ノ幅員ヲ擴張シ併セテ道路ノ付替ヲモ要スルヲ以テ之レカ敷地收用ノ義土地收用法第三十二條ニ依リ許可相受度旨申請有之候處右軌道敷擴張ノ如キハ法第二條第四項ニ鐵道、軌道、道路ト種別シアル點ヨリ見ルモ本件ノ場合直チニ第三十二條ヲ適用スルハ穩當ナラサルヤニ被考候得共御省議如何可有之哉御垂示相煩度此段及照會候也

◎收用審査會裁決事項ニ關スル件(明治三十四年五月一日土甲第二三號各地方長官宛土木局長通牒)

土地收用法第三十五條ノ規定ニ依レハ收用審査會ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域損失ノ補償及收用ノ時期又ハハ用ノ時期々間ノ三事項ヲ定メテ裁決ヲ爲スヘキモノニ有之從テ同事項中假令當事者間ニ何等係争ノ點ナキ事項有之候トモ必ス右三事項ヲ定メテ裁決ヲ爲スヘキハ勿論ニシテ萬一其ノ一ヲ脱漏スルトキハ明カニ同條ノ法文ニ違反スルモノト相成候條收用審査會ノ裁決ニハ同事項中ノ脱漏無之様御注意相成度此段依命及通牒候也

◎土地收用法ニ依ル訴願又ハ行政訴訟ノ辯明書又ハ答辯書

作製ニ關スル件(明治四十一年六月二十七日土甲第二三號各地方長官宛土木局長通牒)

土地收用法第八十一條ニ依リ收用審査會ヲ被告トシテ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シタル場合ニ於ケル辯明書又ハ答辯書提出方ニ付大阪府知事ヨリ問合有之候處右辯明書又ハ答辯書ハ收用審査會ノ議決ヲ經テ提出スルヲ當然ノ順序ト被認候旨本官ヨリ回答致置候條爲御參考此段及通牒候也

◎收用審査會長代理ニ關スル件(明治三十三年九月一日新潟縣知事宛土木局長回答)

知事不在ノトキ地方官々制第十三條第三項ニ依リ縣ノ高等官ヲシテ收用審査會長ノ職務ヲ代理セシメ差支ヘナシ但シ其裁決ハ代理者ノ名ヲ以テスル方然ルヘシト存ス

◎第四十一條申立ノ範圍ニ關スル件(明治三十七年四月十一日甲第三三號福岡縣知事宛土木局長回答)

土地收用法第二十五條ニヨレル意見書ノ提出ナキ場合ニ於ケル收用審査會ノ裁決ニ關シ四月五日第二一二號御照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通ニテ可然ト存候此段及回答候也

福岡縣知事伺(明治三十七年四月五日) 發二第一一二號

土地收用法第二十五條ニ依リ土地所有者又ハ關係人ニ於テ正規ノ期間内ニ意見書ヲ提出セサルモ(法律ヲ熟知セサル爲メ提出セサルモノ多シ)收用審査會ニ於テ起業者ノ申立ヲ不當ナリト認メタルトキハ同法第四十一條ノ範圍ナルヲ以テ同會カ信スル處ニ依リ裁決ヲ與ヘ可然乎目下差懸リタル義有之折返御回答相成度此段及照會候也

◎土地所有者ノ申立ナキ場合ニ於ケル裁決ノ範圍ニ關スル

件(明治四十四年八月十七日福) 島縣知事宛土木局長回答

土地收用法ニ關スル疑義ノ件土地所有者ヨリ意見ノ提出ナク又申立ナキモ審査會ニ於テ適當ト認ムル裁決ヲ爲シ可然ト存ス

福岡縣知事伺(明治四十四年八月十四日) 亥土收第二八一號

土地收用法ニ關シ差懸リ左記疑義相生シ候條折返何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

起業者ヨリ協議不調ノ理由ヲ以テ裁決ヲ求ムルノ申請アリタルモ土地所有者ヨリ法第二十五條ニヨル意見書ヲ提出セサル場合ニ於テハ申請者申請ノ趣旨ニ基キ直チニ裁決ヲ與フヘキヤ意見書ノ提出ナキハ權利ノ拋棄ニシテ起業者ノ申請ニ對シ異議ナキモノト認ムヘク即チ何等申立ナキモノトシテ積極ニ決スルヲ至當トスルカ如シト雖モ斯クスルトキハ意見書ト申立トヲ混同スルニ致ルノ結果本件ノ如ク意見書提出ナキトキハ申立ナキニ歸シ隨テ土地所有者ノ申立ノ範圍ハ之ヲ知ルコト能ハサルコトナリ第四十一條カ双方ノ申立ノ範圍ヲ確定スルヲ必要トスルノ趣旨ニ背クノミナラス本法ハ申立ノ形式ニ關シテ何等規定スル處ナキヲ以テ苟モ實質上申立アリト認メ得ヘキ場合ニ於テハ申立アリトシテ其範圍ヲ確定スル爲メ職權上調査スルヲ以テ本法精神ニ適合スルモノト解スヘク而シテ起業者ノ申請書ニ事由書ト題スル附屬書類ヲ添附シ該書類ニ依レハ所有者ノ申立ツル處ノ價格竝ニ事由ト之ニ對スル起業者ノ之ニ應シ難キ旨ノ意見等明瞭ナル場合ニ於テハ所有者ハ實質上異議ヲ申立ツルモノナル事ヲ認知シ得ヘク即チ双方ノ間ニ爭アルコト疑ナキ所ナルヲ以テ審査會ハ其ノ爭點ヲ明確ニシ且ツ申立ノ範圍ヲ確定スル爲メ第四十三條ノ適用等ニ依リ職權上ノ調査ヲ行ヒタル後初メテ裁決ヲ與フヘキモノト解セラレ疑義ニ涉リ候

◎土地所有者及關係人呼出ノ場合ニ於ケル費用其ノ他ニ關

スル件(明治三十六年二月十八日) 富山縣知事宛土木局長回答

本年二月七日内六發第十六號ヲ以テ土地收用法中疑義ニ關シ照會相成候處

- 一 起業者土地所有者及關係人ハ收用審査會ニ呼出スモ旅費手當若クハ日當宿泊料等ヲ給與スヘキ義無之ト存候
 - 二 日當若クハ手當等ヲ給與スヘキ限ニアラスト存候
 - 三 御意見ノ通ニテ可然ト存候
 - 四 邸宅地狹隘ニシテ移轉物件ヲ移スコト能ハサルトキハ物件所有者ノ住所附近ニ於テ適宜ノ場所ニ之ヲ移轉シ保管ノ責ニ任セサル旨通告シ置カレ可然又住所遠隔云々ハ一種ノ程度ニ屬シ候處其ノ遠隔ノ爲メ物件ノ價格ニ比シ莫大ナル移轉料ヲ要スカ如キ場合ニ於テハ收用審査會ニ於テ裁決シタル該物件移轉料算出ノ趣旨ニ基キ貴官ニ於テ適當ナリト認メラルル場所ニ移轉シ前場合ト同様ノ通告ヲ爲シ置カレ可然存候
 - 五 御意見ノ通ニテ可然存候
 - 六 所屬官廳トハ官職ノ所屬ヲ指ス義ニシテ府縣費ヨリ支出スヘキモノニアラスト存候
- 右及回答候也
- 追テ第五號ハ假令土地所有者ヨリ收用ノ時期ニ付意見ヲ申立テタルトキト雖モ本文ノ如キ場合ニ於テハ相當時期ヲ定メ差支無之ト存候爲念此段申添候也

富山縣知事伺(明治三十六年二月七日)
 六發第一六號

一 土地收用法第四十三條ニ依リ收用審査會ニ於テ土地所有者及關係人ヲ遠路ヨリ呼出シ其意見ヲ聽取

- セシニ右召喚ニ應シタル者ハ執レモ旅費及手當ヲ請求セリ然ルニ鑑定人及事實參考人ハ法第四十五條ニ依リ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得ルノ明文有之候モ土地所有者及關係人ハ假令遠隔ノ地ヨリ召喚ニ應シタリトスルモ請求權ナキカ如ク相見ヘ候ヘ共右ハ法第六十九條第一項ニ依リ縣ノ負擔トシ一般人民ヲ召喚スル時ノ例ニ依リ旅費日當宿泊料(手當否認シ)ヲ給與スヘキ義ナル哉
- 二 收用審査會ハ收用スヘキ土地物件ヲ調査スルノ必要アリテ實地ニ就キ被收用者ヲシテ立會案内ヲ爲サシメタルニ其ノ日當ノ手當ヲ請求セシモ右ハ法第六十八條ニ依リ被收用者ノ義務ニ屬スル義ナル哉
- 三 法第七十三條ニ依リ暴慢ナル者ノ所有ニ係ル樹木移轉ノ代執行ヲ爲スニ當リ收用地上ニ老大ノ樹木有之ヲ他ニ移植スルモ到底生育ノ見込ナキモノハ之ヲ伐木シ尙ホ適宜ノ方尺ニ切斷シ又生育ノ見込アルモノハ根ヨリ拔キ取り共ニ被收用者ノ住宅ニ持運ヒ之レカ終了ノ上ハ其ノ旨被收用者ニ通告シ右ニテ移轉ノ執行ヲ了シタルモノト心得可然哉
- 四 法第七十三條ニ依リ建物若ハ樹木移轉ノ代執行ヲ爲スニ當リ被收用者ノ邸敷地狹隘ニシテ之ヲ移スコト能ハサルカ若ハ被收用者ノ住所遠隔ノ地ナルトキハ如何ニシテ移轉ノ手續ヲ了スヘキモノナル哉
- 五 收用審査事項中ノ實地臨檢ニ要スル等彼是緻密ノ審査ヲ要スル爲メ起業者計畫セル收用ノ時期ヲ經過セムトシ若ハ經過シタル時ハ法第四十一條ノ規定ニ拘ラス(被收用者ヨリ收用時期ニ付キ意見ヲ申立サル場合)收用審査會ニ於テ相當時期ヲ定メ裁決スルモ差支ナキ哉
- 六 三十三年勅令第百二號第二條中高等文官ニシテ委員タル者ニ給スヘキ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヨリ云々ト有之候處茲ニ審査委員タル稅務官ヲシテ實地ニ就キ收用土地ノ調査ヲ爲サシメタルニ其ノ旅費ハ

府縣費ヨリ支辨スヘキ旨ノ要求アリ右所屬トハ其事務ノ所屬ヲ指スカ將又其ノ官職ノ所屬ヲ指ス義ナル哉

右差懸ノ件有之及御照會候條急速何分ノ御回示相成度此段及照會候也

◎收用審査會裁決書中土地所有者住所誤記ノ場合取扱方ノ

件(明治四十四年八月二十六日甲第一七號千葉縣知事宛土木局長回答)

本月二十一日附土第一〇三一七號ヲ以テ土地收用法ニ關スル疑義ノ件御照會有之候處右ハ御見解ノ通ト被存候此段及回答候也

千葉縣知事伺(明治四十四年八月二十一日土第一〇三一七號)

土地收用法ニ依リ收用審査會ニ於テ土地收用ノ裁決ヲ爲シ起業者ハ該裁決ニ依リ土地收用ヲ完了シタルニ當初起業者提出ノ申請書中土地所有者住所ノ番地ヲ誤記シタル結果裁決書ニモ同様誤謬ノ儘記載シタルコトヲ發見シ起業者ヨリ之レカ更正方申出有之候處右ハ裁決ノ效力ニハ何等ノ影響無之モノト認メ候ニ付申出通審査會ニ於テ更生ノ手續ヲ爲シ差支ナキ見込ニ有之候へ共一應貴官ノ御意見承知致度候追テ本件ハ差懸リ必要有之候ニ付テハ折返御回報相成度候

◎土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件

(明治三十三年三月三十一日勅令第一〇一號)

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ合同收用審査會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負擔スヘキモノノ中高等文官ニ非サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府縣ノ分擔トス

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎土地收用法第五十一條適用ニ關スル件

(大正八年十一月十九日甲第一一三號愛知縣知事宛土木局長回答)

六月十日土第四四三一號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處右立木ハ土地ト一體ヲ爲スモノニシテ土地收用法第五十一條ニ所謂土地ニ在ル物件ニ無之候

追テ明治四十二年法律第二十二號及民法第二百四十二條但書ニ該當スルモノハ前文ノ限ニ無之候條爲念申添候也

愛知縣知事伺 (大正八年六月十日) (土第四四三一號)

明治四十二年立木ニ關スル法律ニ依ラサル樹木ハ土地收用法第五十一條ニ所謂土地ニ在ル物件ナレヤ否ヤ何分ノ御指示相成度候

◎河川法ニ依リ河川ノ敷地ト認定セラレタル土地及土地收用法ニ依リ收用セラレタル土地ノ分割竝土地臺帳更正ニ

關スル件 (大正三年九月十日發土第二六號各地方) (長官、土木出張所長宛土木局長通牒)

一筆ノ土地ノ一部カ河川法ニ依リ河川ノ敷地ニ認定セラレ又ハ土地收用法ニ依リ收用セラレタル場合ニ於テ前者ニ在リテハ官廳ヨリ丈量圖ヲ添へ後者ニ在リテハ起業者ヨリ補償金受取證又ハ供託受領證及土地ノ測量圖(測量圖ノ分界ハ當該道、府)ヲ添へ土地臺帳所管廳ニ通知又ハ届出ヲ爲ストキハ分割手續ヲ爲シ又右河川敷地又ハ收用地ニ關シ證憑ヲ具シ官廳又ハ起業者ヨリ臺帳ノ訂正ヲ請求スルトキハ之ニ依リ處理シ可然旨大藏省主稅局長ヨリ稅務監督局長へ通牒セル旨通知有之候條御了知相成度候

◎收用審査會裁決取消ノ場合ニ於ケル土地所有權移轉ニ關

スル件 (明治四十二年十二月東丙第二五) (二號東京府知事宛土木局長通牒)

東京瓦斯株式會社取締役社長ヨリ別紙ノ通伺出有之候處土地收用地ノ所有權ハ收用審査會ノ裁決ニ依リ定メラレタル收用ノ時期ニ於テ之ヲ取得スルモノナレハ該裁決ニシテ取消サレタルニ於テハ其所有權ハ之ヲ取得スルヲ得サルモノニ有之候條此旨伺入へ御指示方可然御取計相成度此段申進候也

東京瓦斯株式會社伺

土地收用ノ件ニ付明治四十一年一月二十九日附當會社ノ申請ニ基キ同年四月二十五日東京府收用審査會ノ爲シタル裁決ハ其ノ審査不備ナル理由ノ下ニ明治四十一年十一月六日貴官ニ於テ御取消ノ處分相成候處當會社ハ土地收用法第六十條第二項第一號ニ據リ適法ニ補償金ヲ供託シ同法第六十三條ニ依リ完全ニ收用地ノ所有權ヲ取得致居候得ハ右取消處分ノ效果ハ單ニ收用審査會ノ裁決ヲ無効ナラシムルニ留リ當會社ノ取得セル權利ニ影響ヲ及ホササル義ト心得任意ニ計畫ヲ遂行仕可然哉

右御伺候也

◎協議買收ニ依ル土地ノ買戻權ニ關スル件

(明治四十五年四月三十日土第一二) (八七號各地方長官宛土木局長通牒)

大阪府知事ヨリ土地收用法第六十六條ニ規定セル買戻權ニ關シ別紙甲號ノ伺出有之候處乙號ノ通答相成候條爲念此段及通牒候也

(甲號) (明治四十五年四月二十日二) 地甲第六五號大阪府知事伺

土地收用法第二十二條ニ依リ起業者ヨリ土地所有者ニ協議ヲ爲シ之ニ因リ所有權ヲ取得シタル場合ハ當事者ノ合意ニ依リ權利ヲ移轉シタルモノニ有之候ニ付普通賣買ナリト解スヘキモノト被存從テ該地力不用ニ歸シタル場合若クハ他ノ目的内閣ノ認定ヲ受ケサルモノニ使用セムトスル場合ト雖モ同法第六十六條ニ依リ買戻權ハ存在セサル義ト相認メ候得共明治三十八年方第七十八號軌道除去請求事件ニ對スル同年四月二十四日大審院判決理由ニ依レハ法ノ命スル處ニ依リ協議ヲ爲シタルモノニシテ所有者ハ其ノ間賣買ノ自由意思ヲ有セサルカ故ニ收用ナリトノ趣旨ニ有之聊カ疑義ヲ生シ候ニ付テハ目下差懸リタル事件有之其影響スル處渺カラス候ニ付何分ノ御指揮仰キ度此段相伺候也

(乙號)

客月二十日附二地甲第六五號伺土地收用法第六十六條ニ規定セル買戻權ノ議ニ付テハ御見解ノ通協議ニ依リ土地ヲ賣渡タル者及其相續人ニ買戻權ヲ認メサル義ト心得御取扱相成可然經伺ノ上此段及回答候也

◎土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件

(明治三十三年三月三十) 一日勅令第一〇二號

第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス

一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當

二 裁決書謄本ノ調製費

三 郵便及電信料

四 傭人料

五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ

第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎收用審査委員旅費ニ關スル件 (明治三十三年五月十一日乙發第一) ○號各地方長官宛土木局長通牒

土地收用法施行令第十二條第二項高等文官ニアラサル審査委員ノ旅費ニ關スル件ハ府縣制第九十四條ニ依リ定メラレシ所ノ規定ニ依ル義ニシテ審査委員ノタメ殊更ニ規定ヲ設クルヲ要セサル義ニ有之候條右様御了知相成度爲念此段及通牒候也

◎土地收用審査委員旅費支給ノ件 (大正元年九月五日地第三六九號岡) (山縣知事宛土木、地方兩局長回答)

本月三日議甲第五百三十五號ヲ以テ土地收用審査委員ノ費用辨償ニ關シ御問合ノ趣了承右ハ府縣制第七十四條ニ依ル臨時補充員ト同一額ヲ支給シ可然ニ付府縣名譽職員費用辨償規定中ニ追加相成方可然存候此段及回答候也

岡山縣知事照會 (大正元年九月三日) 議甲第五三五號

土地收用審査委員ニシテ高等文官ニ非ラサル委員旅費額及支給方法ハ明治三十三年五月乙發第一〇號土木局長通牒ニ依リ殊更ニ規定ヲ設ケス縣參事會職務ノ爲出頭又ハ出張スル旅費額支給方法ニ依ルヘキ義ニ候處本縣ニ於テハ縣參事會召集ニ係ル實費辨償ハ月手當トシ旅費ハ往復ノ鐵道賃、車馬賃、船賃ヲ支給スルモノニシテ日當宿泊料ヲ支給セス故ニ土地收用審査委員トシテ出席スル場合モ往復旅費ノ外支給セサルモ右廳下ニ滞在スル場合ハ實際其費用ヲ要スルヲ以テ日當宿泊料ノ支給ヲ要シ事實其ノ支給ノ方法ヲ異ニスルノ必要有之候ニ付府縣制第九十四條ニ依リ別段ノ規程制定致度右ハ支障無之哉至急何分ノ御回報相成度候

◎收用審査會ニ要スル書記任命ノ件 (明治三十三年五月二十五日乙發第六) 四號千葉縣知事宛土木局長回答

五月十六日內二發第二百九十九號ヲ以テ收用審査會ニ要スル書記任命並其俸給若ハ手當金ノ件ニ付御照會ノ趣了承右ハ總テ御見込ノ通ニテ可然ト存候此段及回答候也

千葉縣知事伺 (明治三十三年五月十六日) 日內二發第二九九號

本年法律第二十九號土地收用法其他之ニ關スル命令等公布相成候處收用審査會ニ要スル書記ヲ任用スルノ明文無之候得其實際缺クヘカラサルモノニ付適宜設定スヘキ義ニ可有之ヤ果シテ然リトセハ其俸給若ハ手當金ハ前記土地收用法第六十九條ニ照シ便宜支給スヘキヤ至急御回示ヲ煩シ度右照會ス

◎土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件

(明治三十三年三月三十日) 一日勅令第一〇三號

明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ他土地收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

- 一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地
- 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル土地
- 三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地
- 四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地
- 五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル土地

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

(明治三十三年五月十八日) 内務省訓令第五二五號

第一條 明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地ニ關シ賣拂、讓與、交換等ノ處分ヲ爲シ若ハ官有地中他ノ種目ニ組換(例ハ公用ニ供スル土地ハ不用ノ土地ヲ御料地社)ヲ爲スコトヲ要スルトキ本大臣ニ稟請スルモノハ稟請書ニ、其廳限リ處分寺境内地ニ編入スルノ類)シタルモノハ官有土地増減異動報告中摘要及事由欄内ニ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一 公用土地買上規則ニ依リ買上ケタル土地ニシテ本年勅令第三百三號規程各號ノ一ニ該當スルモノニ在テハ其ノ事由
二 公用土地買上規則ニ依リ買上ケタル土地ニシテ本年勅令第三百三號規程各號ノ一ニ該當セサルモノ及土地收用法ニ依リ收用シタル土地ニ在テハ舊所有者ニ於テ買受クルコトヲ得サルニ至リタル事由(公用土地買上規則ニ依リ買上ケタリト雖爾後引續キ國有ニ屬シ居リシモノナリ、土地收用法第六十六條第一項規定ノ期間ヲ經過シ期間内ニ買受ノ通知ヲ爲ササルモノナリノ類)

第二條 公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地ヲ各廳ニ於テ其所有ニ供セムトスルカ爲メ例ニ依リ支障ノ有無ヲ問合來リタルトキ前條一號、二號ニ掲クルカ如キ事由アルモノハ其事由又舊所有者ニ於テ買受クルコトヲ得ヘキモノアルトキハ其事由ヲ回答書ニ詳記スヘシ
右訓令ス

◎同上ノ件(明治三十三年五月十八日内務大臣通知房庶甲第一三三號)

明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地ヲ貴省(廳)ノ所有ニ供シ又ハ同上ノ土地ニシテ貴省(廳)所管ニ屬スルモノヲ當省ヘ還付シ(讓渡又ハ交換ヲ爲メ還付セラルト)若クハ他廳ノ使用ニ移サントセラルトキハ其公用土地買上規則ニ依リ買上ケタルモノニシテ本年勅令第三百三號規程各號ノ一ニ該當スルモノナルトキハ其事由又同規則ニ依リ買上ケタリト雖右勅令規程各號ノ一ニ該當セサル土地及收用法ニ依リ收用シタル土地ニシテ舊所有者ニ於テ買受クルコトヲ得サルニ至リタルモノナルトキハ其事由ヲ當省ヘノ照會書ニ明記相成度尙地方廳ヘハ別紙ノ通及訓令候此段申進候也

◎公用土地買上規則ニ依リ買上ケタル土地ノ買戻ニ關スル

件(大正五年五月三日丘土第五八號) 福岡縣知事宛土木局長回答

標記ノ件客月四日土第一六五〇號ヲ以テ御照會ノ次第有之候處右土地ハ買上ケノ當時ヨリ引續キ國有ニ屬セルモノニ非サルニ依リ明治三十三年三月勅令第三百三號ノ適用ヲ受ケサル義ト存候

福岡縣知事伺 (大正五年三月四日) (土第一六五〇號)

客年八月二十日附內務省訓第四五一號ヲ以テ司法省ヨリ土地受領ノ上賣却方御訓令相成候本縣福岡市須崎裏町地内之監獄敷地客月十五日受領濟ニ付本月十日ヲ以テ公賣ニ付スヘキ旨廣告取計候處右土地ノ一部ハ監獄擴張ノ際公用土地上規則ニ依リ收用セラレタル土地ナルヲ以テ元收用價格ヲ以テ拂戻相成度旨關係者ヨリ出願來候依テ調査シタルニ出願ノ個所ハ今同處分ヲ爲スヘキ土地ノ一小部分ニハ候得共願人申立ノ如ク明治十八年十二月廿四日附土第五百三號監獄敷地買上ノ義ニ付本縣ノ伺ニ對シ明治十九年四月七日內務大臣ノ認可ニ基キ同年同月廿一日土地買上規則ニ依リ地方費ヲ以テ買上ケ尙同時ニ官有地第二種監獄署敷地ニ編入ノ義達方取計候モノニ有之候處本件監獄敷地ハ總テ明治三十三年一月法律第四號ニ依リ同年十月一日ニ於テ國庫ニ歸屬シ之カ結果トシテ本縣ニ於テハ明治三十四年二月十五日ヲ以テ官有地第二種司法省所轄監獄署用地ニ地種組替ヲ爲シタルモノニ有之候就テハ買上當時ハ官有地ト稱スルモ其實所有權ハ縣ニ屬スルモノナルヲ以テ明治三十三年三月勅令第三百三號土地收用法ニ依ル命令ノ件中「公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國庫ニ屬スル土地」ナル規則ニ該當セサルノミナラス土地收用法施行ノ際ハ現ニ本縣ニ於テ修理保存費ヲ負擔セル土地ナルヲ以テ同件第二號ニ依ル土地收用法ノ規定ニ依リ補償價格ヲ以テ買戻可相成筋合ニ無之モノト被存候得共疑議ニ涉リ候條御意見承知致度

◎內務省ノ起業ニ係ル土木事業ニ關シ携帯スル證票雛形ノ

件 (大正三年一月十六日) (內務省告示第七號)

明治三十三年勅令第九十九號土地收用法施行令第二條ニ依リ內務省ノ起業ニ係ル土木事業ニ關シ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ノ身分ヲ證明スヘキ證票ノ雛形左ノ通定ム(雛形略)

◎土地收用法ニ依リ收用セラルヘキ土地及內務大臣ノ許可ヲ要スヘキ工事ニシテ「社」寺境内地ニ關係スルモノハ其

ノ調書見取圖添附ノ件 (明治二十七年十二月十三日社申第 八〇號各地方長官宛社寺局長通牒)

「社」寺境内地區域變更ノ儀ニ付テハ明治二十四年訓令第一〇一六號ノ旨モ有之候處土地收用法ニ依リ收用セラルヘキ土地及內務大臣ノ許可ヲ要スヘキ工事ニシテ「社」寺境内地ニ關係ヲ及ホスモノハ其ノ全部ト幾部トニ拘ハラス工事設計書ノ外別ニ「社」寺名及所在郡區町村並ニ坪數等ヲ詳記シタル調書且其ノ境内ノ幾部ニ係ルモノハ一「社」寺毎ノ境内見取略圖面共取添稟申相成度依命此段申進候也

◎土地收用法ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル

場合ニ關スル件 (明治三十五年七月三十日) (內務省訓令第一四號)

明治三十三年法律第二十九號土地收用法第十三條ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ事業施行ノ爲御料地及國有林野ニ潰地ヲ要スルモノアルトキハ〔御料局〕支廳若ハ〔御料局〕事務所ノ所管ノ御料地ニ付テハ當該支廳長若ハ〔事務所長〕ニ其ノ他ノ御料地ニ付テハ〔御料局〕長ニ又國有林野ニ付テハ〔大林區署〕長ニ其ノ支障ノ有無ニ付協議ヲ遂ケ事業認定申請書進達ノ際該協議ノ顛末ヲ具申スヘシ

◎町村共同墓地收用ニ關スル件（明治四十三年十一月十七日甲第一）
○七號東京府知事宛土木局長回答

本月十日附戊土發第一八八五號ヲ以テ土地收用法適用ニ關スル御照會ノ件右町村共葬墓地ノ如キハ後段御見解ノ通御取扱可然被存候此段及回答候也

東京府知事伺（明治四十三年十一月十日戊土發第一八八五號）

土地收用法ニ依リ内閣ノ認定ヲ受ケタル事業ニシテ土地收用法施行令第三條ノ現ニ公用ニ供スル土地（例町村ノ共葬墓地）ヲ收用ノ目的トスルコトハ現行法令ノ規定上差支ナキモノト解釋候へ共一方ヨリ觀ルトキハ先ツ其ノ公用廢止ノ上之ヲ目的トスル事穩當ニモ考ヘラレ旁疑議ニ涉リ候ニ付何分ノ御意見御回示ヲ得度此段及照會候也
追而本件ハ差懸リ居リ候條至急御回答煩シ度申添候

◎公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル土地ニ對シ土地收用

事業認定ノ件（大正六年九月京土第七六號）
（京都府知事宛土木局長照會）

本月四日六土第一八三八號ヲ以テ標記ノ件御副申相成候處起業地中京都瓦斯株式會社敷地ニ係ルモノニ付テハ右會社カ土地收用法上ノ公共ノ利益トナルヘキ事業ヲ營ムニ於テハ之ニ對シ事業認定ヲ爲スハ不穩當ト被認候條同會社ノ敷地ヲ道路敷ト爲スカ爲ニハ其ノ同意ヲ要スル儀ニ付右手續完了ノ上御申出相成様致度此段再應及照會候也

要塞地帶法(拔萃)

(明治三十二年七月十五日)改(大正四年法律第一〇五號)正(第一七號)

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非レハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ
堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、墜道、永久棧橋

◎要塞地帶法施行規則(拔萃)

第三條 要塞地帶法第十條及第十六條ノ禁止ヲ解除シタル場合ニ於テハ尙要塞司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 要塞司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ其ノ作業地航空ノ場合ニ在リテハ其ノ發着場ヲ管轄スル市町村長朝鮮ニ在リテハ警察署長同分署長臺灣ノ奥書ヲ得テ當該要塞司令官ニ願出スヘシ
三 要塞地帶法第十條解除シタル事項ニ限ルニ至第十二條及第十五條及第十六條解除シタル事項ニ限ルニ掲クルモノニ在リテハ其ノ目的、設計、位置及落成期限
(以下略ス)

鐵道船舶郵便法(明治三十三年三月十三日改(大正五年三月八日)法律第一八號同第五五號)

第一條 本法ニ於テ鐵道運送業者ト稱スルハ地方鐵道法ニ依リ鐵道ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂ヒ船舶運送業者ト稱スルハ商法ニ依リ船舶ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 鐵道運送業者ハ郵便取扱ノ爲郵便官署ノ要求アルトキハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ供シ又ハ建物ノ建築若ハ改築ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第三條 鐵道運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ定期列車毎ニ郵便車トシテ列車定數ノ總容積ノ五分ノ一迄ハ其ノ列車ノ一部ヲ供給シ又ハ郵便官署ノ交付ニ係ル同一容積以內ノ郵便車ヲ聯結スヘシ船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ船舶ニ相當ノ郵便船室ヲ供給スヘシ

第四條 郵便車ノ構造ハ通常客車ト同一タルコトヲ要ス

第五條 郵便車又ハ郵便船室ニハ郵便物郵便取扱員及其ノ監視員ノ外搭載スルコトヲ得ス

第六條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求ニ應シ郵便車又ハ郵便船室ニ郵便物ノ取扱ニ必要ナル設備及維持ヲ爲スヘシ

鐵道運送業者ハ郵便官署ノ交付ニ係ル郵便車ヲ保管スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ設備維持及保管ニ要スル費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第七條 鐵道運送業者ハ列車仕立驛ニ於テ指定ノ郵便車ノ外臨時容積ノ増加ヲ要シ又ハ臨時郵便車ノ聯結ヲ要スル爲其ノ列車出發時刻三十分前迄ニ郵便官署ノ要求アルトキハ他ノ郵便車ヲ聯結シ又ハ通常客車ヲ其ノ代用ニ供スヘシ

第八條 鐵道運送業者ハ郵便官署ニ於テ郵便車ニ依ラサル郵便物ノ運送ヲ要求シタルトキハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外旅客列車ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ運送スヘシ

第九條 鐵道運送業者列車ノ發著時刻ヲ變更スルトキハ七日以前ニ之ヲ郵便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲發著時刻ノ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第十條 郵便車ノ使用料金ハ其ノ供給スル容積ニ應シ當該鐵道運送業者ノ定メタル最低等級旅客一哩運賃ノ左ノ割合ニ依ル

三百立方呎迄 一哩毎ニ 十割以内

五百立方呎迄 一哩毎ニ 二十割以内

七百立方呎迄 一哩毎ニ 三十割以内

一千立方呎迄 一哩毎ニ 五十割以内

一千立方呎ヲ超過シタルトキハ全容積ニ對シ百立方呎迄ニ付一哩毎ニ六割以内

郵便車ノ容積ハ各列車ニ於ケル郵便車總容積ヲ以テ之ヲ算定ス其ノ容積ノ算定方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

郵便車ニ依ラスシテ郵便物ヲ運送セシムル場合ニ於ケル運送料金ハ當該鐵道運送業者カ其ノ運送方法

ニ付定メタル普通貨物運賃ノ最低額ノ半額以内トス

郵便官署ヨリ郵便車ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道運送業者ニ支給スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 船舶運送業者ハ船舶ニ搭載シタル郵便物ヲ其ノ目的地ニ於テ貨物ニ先チ陸揚スヘシ天災事變ノ爲航海ノ途中ニ於テ積替若ハ陸揚スルトキ亦同シ

第十二條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 郵便物搭載列車天災事變ノ爲其ノ進行ヲ停止シタルトキ又ハ郵便物搭載船舶航行中天災事變ニ因リ郵便物ヲ陸揚シタルトキハ鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便取扱員ノ在ラサル場合ニ限り

直ニ該郵便物ヲ附近郵便官署ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十四條 第三條ノ要求ニ應セサル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第二條若ハ第七條ノ要求ニ應セサル者ハ

千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第一項及第二項ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第八條ノ要求ニ應セサル者ハ

五百圓以下ノ罰金ニ處ス第五條ニ違反シタル鐵道運送業者及船舶運送業者亦同シ

第十六條 第十三條ニ依ル送達ヲ爲ササル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者カ其ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ過失ニ因リ亡失又ハ毀損シタル

トキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第九條又ハ第十一條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十九條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者カ第十四條乃至第十八條

ニ該當スル行爲ヲ爲シタルトキハ各本條ノ刑ニ處ス
第二十條 軌道條例ニ依リ運送營業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第二十一條 鐵道又ハ航路若ハ船舶ニ關シ政府ヨリ補助ヲ受ケ若ハ受ケタル鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ニ對シ特別ノ命令アルトキハ其ノ命令ニ依ル

附 則

本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道船舶郵便規則左ノ通り相定メ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

鐵道船舶郵便規則

第一條 鐵道船舶郵便法ニ依リ運送スヘキ郵便物ニハ現ニ郵便物運送ノ用ニ供スル必要物件ヲ包含ス

第二條 運送業者ノ郵便物運送及授受ニ關スル取扱方法並運送業者ニ交付スヘキ金額ノ仕拂方法ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第三條 郵便物ヲ運送スヘキ區域度數時刻列車並郵便車室又ハ郵便船室ノ容積及郵便物ノ受渡局ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第四條 鐵道船舶郵便法第五條ニ依リ郵便車室又ハ郵便船室ニ搭乘スヘキ郵便取扱員及監視員ハ制服ヲ著シ搭乘證ヲ携帯スル者ニ限ル

鐵道監査員、鐵道係員又ハ船員ハ其ノ職務執行上必要アル場合ニ限り郵便車室又ハ郵便室船内ニ出入スルコトヲ得

第五條 鐵道船舶郵便法第六條ニ依リ郵便官署ノ要求ニ應シ必要ナル設備及維持ヲ爲サムトスルトキハ

◎鐵道船舶郵便規則

(明治三十三年九月一日) 改 (明治三十七年六月) 遞信省令第四二號

(大正五年七月) 同 第四三號
(同 十年五月) 同 第二三號

運送業者ハ豫メ工事仕様書並經費豫算書ヲ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 郵便物ヲ運送スル船舶ニシテ發著日時ヲ定メタルモノ其ノ日時ヲ變更スルトキハ船舶運送業者ハ五日以前ニ之ヲ當該郵便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲發著日時ノ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第七條 一列車若ハ一船舶ニ於ケル郵便車室又ハ郵便船室ハ郵便官署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ二ヶ所以上ニ分離スルコトヲ得ス

第八條 郵便車室及郵便船室ノ位置ハ特ニ郵便官署ノ指定ナキモノト雖モ常ニ之ヲ一定スヘシ但シ正當ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 郵便車室及郵便船室ノ容積ハ各其ノ區畫障壁ノ内容積ヲ謂フ

第十條 郵便官署ヨリ郵便車室ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道船舶郵便法第十條ニ依リ鐵道運送業者ニ交付スヘキ金額ハ同法第十條第一項ノ容積ニ應スル最高料金ノ九割五分以内トス

第十一條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ其ノ供給スル容積ニ應シ左ノ割合ニ依ル

百立方呎迄	一 湮毎ニ	三錢三厘以内
二百立方呎迄	一 湮毎ニ	四錢六厘以内
三百立方呎迄	一 湮毎ニ	五錢九厘以内
四百立方呎迄	一 湮毎ニ	七錢五厘以内

五百立方呎迄 一 湮毎ニ 九錢二厘以内

六百立方呎迄 一 湮毎ニ 十一錢一厘以内

七百立方呎迄 一 湮毎ニ 十三錢以内

八百立方呎迄 一 湮毎ニ 十五錢一厘以内

九百立方呎迄 一 湮毎ニ 十七錢三厘以内

一千立方呎迄 一 湮毎ニ 十九錢六厘以内

一千立方呎ヲ超過シタル場合ニハ其ノ全容積ニ對シ百立方呎迄ニ付一湮毎ニ二錢以内

第十二條 郵便官署ニ於テ特別ノ條件ヲ附シタルトキハ前條ノ料金率ヲ増加スルコトアルヘシ

第十三條 第十一條ノ運送料金ハ鐵道船舶郵便法第十三條ノ場合ノ外船舶運送業者ニ於テ郵便官署ト船舶間ニ郵便物ヲ運送スル場合ノ費用ヲモ包含ス若シ陸上ノ遞送距離一里ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ

陸路遞送ノ實費ヲ支給ス

第十四條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便物ヲ搭載シタル鐵道列車又ハ船舶ニシテ天災事變ニ遭

遇スルトキハ郵便官署又ハ郵便取扱員ノ要求ニ依リ列車又ハ船舶ニ郵便物ヲ搭載ノ儘保管シ又ハ他ノ

貨物ニ先チ其ノ指定ノ地ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十五條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者第二條又ハ第三條ニ依ル郵便官署ノ指定ニ違反シタルトキ又

ハ第六條乃至第八條ニ違反シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ第十四條ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者前項ニ該當スル行爲アリタルトキ亦同シ

登録稅法(拔萃)(明治二十九年三月二十八日法律第二十七號)

改(明治三十八年三月同四十二年四月同四十三年六月)正(法律第五八號 法律第三一號 法律第六四號)

第一條 登録稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス
第三條ノ二 鐵道抵當原簿、輕便鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ

登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ一

三 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金二圓

第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未満端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條ノ二 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ撰定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス

官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附 則

第二十條 本法ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

◎登録稅法施行規則(拔萃) (明治三十二年五月十九日) 勅令第二〇五號

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録稅ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
第二條 登録稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

交通取締規則

(大正十五年二月六日) 警視廳令第五號

第一條 本令ニ於テ道路ト稱スルハ道路法第一條ノ規定ニ依ル道路及公衆ノ自由ニ通行シ得ル場所ヲ

第二條 道路法第一條ノ規定ニ依ル道路以外ノ道路ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外道路取締令ノ規定ヲ準用ス

第三條 本令ニ於テ車馬ト稱スルハ道路ヲ使用スル牛、馬、諸車等ヲ謂フ但シ電車及小兒車ノ類ヲ除ク
第四條 所轄警察官署ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトハ道路取締令又ハ本令ニ依リテ其ノ爲シタル許可又ハ指定ヲ取消シ、制限シ又ハ變更スルコトヲ得

第五條 道路ヲ通行スル者ハ警察官吏ノ交通ニ關スル指揮又ハ信號アリタルトキハ直ニ之ニ從フヘシ
第六條 車馬ヲ操縦シ又ハ馭スル者ハ左ニ定ムル所ニ從ヒ信號ヲ爲スヘシ但シ已ムヲ得サルトキハ他ノ適當ナル信號ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 一 右折セムトスルトキ 右手ヲ開キ右方水平ニ舉ク
- 二 左折セムトスルトキ 左手ヲ開キ左方水平ニ舉ク
- 三 停止セムトスルトキ 右手又ハ左手ヲ握リ斜下ニ出ス
- 四 後者ヲシテ追越サシメムトスルトキ 右手又ハ左手ヲ開キ右方又ハ左方水平ニ舉ケ之ヲ前

後シ動カス

五 道路ノ交叉點ニ於テ前進セムトスルトキ 右手又ハ左手ヲ前方水平ニ擧ケ

前項第一號乃至第四號ノ信號ハ腕ヲ外方ニ突出シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 道路ヲ通行スル者ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 歩行者、兒童幼兒ノ隊伍及小兒車ノ類ハ步道ノ左側

二 緩行車馬(足踏自轉車、牛馬車、人力車)、(荷車等)疾行車馬(非サルモノ)、隊伍、神輿、葬列其ノ他ノ行列、長大物件ヲ運搬スル者及二人以上ニテ物件ヲ運搬スル者ハ車道ノ左側

三 疾行車馬(自動車、自動自轉車、サイ)ハ車道ノ中央左側幅員十一米(六間)以上ノ道路ニシテ歩車道

ノ區別ナキモノニ在リテハ前項ノ適用ニ關シ道路ノ兩側ニ於テ各其ノ幅員ノ六分ノ一ヲ步道、其ノ他ノ部分ヲ車道ト看做ス

第八條 軌道敷内ハ横斷其ノ他已ムヲ得サル場合ノ外通行スヘカラス但シ疾行車馬ニシテ電車ノ進行ヲ防ケサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 電車ノ直前又ハ直後ニ於テ軌道ヲ横斷スヘカラス

第十條 人家連檐ノ場所ニ在リテハ車馬ハ其ノ幅員ノ二倍半以上ノ幅員ヲ有スル道路ニ非サレハ通行スルコトヲ得ス但シ警察官吏ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ車馬ノ幅員ハ車馬自體及積荷ノ最突出シタル部分ニ就キ之ヲ測定ス

第十一條 車馬連續シテ進行スルトキハ前者ニ對シ疾行車馬ハ十米(五間三尺)以上、緩行車馬ハ三米(一間四尺)以上ノ距離ヲ保ツヘシ

第十二條 車馬ハ濫ニ追越シ又ハ併列進行スヘカラス

第十三條 他ノ車馬ヲ追越サムトスルトキハ後者ニ於テ音響器ヲ鳴ラシ又ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ前者ノ避讓又ハ第六條ノ規定ニ依ル信號ヲ待チテ之ヲ爲スヘシ

第十四條 車馬ハ乗客乗降中ノ電車ヲ追越サムトスルトキハ其ノ電車ヨリ二米(約一間)以上ノ間隔ヲ保有シ除行スヘシ但シ安全地帯ノ設ケアル停留場ニ於テ乗降客輻輳セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 交通頻繁ナル道路ノ交叉點ニ於ケル車馬ノ右折ハ之ヲ避クヘシ

第十六條 車馬ハ道路ノ交叉點ニ於テ右折セントスルトキハ車道ノ左側ニ一時停止シ進マントスル方向ノ交通ノ開カルルヲ待チテ進行ヲ始ムヘシ

第十七條 道路ノ交叉點ニ於テ停止ヲ命セラレ又ハ停止ノ信號アリタルトキハ其ノ交叉セル部分ニ立入ルヘカラス

前項ノ制限ヲ越エタル後停止ヲ命セラレ又ハ停止ノ信號アリタルトキハ直ニ其ノ場ニ停止シ警察官吏ノ指揮ヲ待ツヘシ

第十八條 出火場ニ赴ク消防車接近シ來リタルトキハ車馬ハ避讓シ進行ヲ停止シテ其ノ通過ヲ待ツヘシ

第十九條 同一方向ニ進行スル車馬ニ在リテハ緩行車馬ハ疾行車馬ニ其ノ交通ヲ讓ルヘシ

第二十條 車馬ノ進路交叉シ衝突ノ虞アルトキハ他ノ車馬ヲ左ニ見ルモノニ於テ一時停止シ其ノ通過ヲ待ツヘシ

第二十一條 牛、馬ノ牽綱ハ一米(三尺三寸)以内ニ之ヲ把ルヘシ

第二十二條 尖端アル物件ヲ運搬スルトキハ其ノ尖端ヲ纏束スル等危険豫防ニ必要ナル装置ヲ爲スヘシ
第二十三條 不潔物、見苦シキ物、飛散、漏出若ハ墜落シ易キ物、又ハ著シキ騒音ヲ發スル物ヲ運搬スルトキハ覆蓋其ノ他適當ナル装置ヲ爲スヘシ

第二十四條 酒氣ヲ帶ヒタル者又ハ不熟練ナル者ハ車馬ヲ操縦シ又ハ馭スヘカラス

第二十五條 道路取締令第十六條及其ノ準用規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル願書ニ通ヲ出發地所轄警察官署ニ提出スヘシ

一 車輛ノ種類及運搬ノ方法

二 積荷ノ品目

三 積荷ノ制限ヲ超過スル重量、容積

四 通行ノ路線及日時

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ運搬中積荷ノ見易キ箇所ニ其ノ旨標示シ且許可證ヲ携帯スヘシ

第二十六條 道路ニ車馬ヲ駐ムルトキハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ但シ特ニ指示アリタルトキハ之ニ從フヘシ

一 進行ノ方向ニ向ケ車道 歩車道ノ區別ナキモノニ在リテハ道路ノ左側端ニ駐ムルコト但シ二輪ノ

自轉車ハ歩道上車道側ニ駐ムルコトヲ得

二 道路ノ交叉點、曲角、ガード又ハ橋梁等ヨリ五米(二間四尺)以内ニ駐メサルコト

三 火災報知機、消火栓又ハ人孔等ヨリ三米(一間四尺)以内ニ駐メサルコト

四 電車停留所側ニ於テ其ノ標示柱ヨリ三十六米(二十間)以内ニ駐メサルコト

五 建築物ノ出入口ニ駐メサルコト

六 車道(歩車道ノ區別ナキモノニ在リテハ道路)ノ幅員十一米(六間)未滿ノ道路ニ在リテハ兩側ニ相對シテ駐メサルコト

二輪ノ自轉車ニ關シテハ前項第四號乃至第六號ノ規定ヲ適用セス

第二十七條 電車ヲ待合ハス者ハ安全地帯ニ、安全地帯ノ設ケナキ場所ニ在リテハ車道ニ接近シテ歩道ニ、歩車道ノ區別ナキ場所ニ在リテハ軌道ニ接近シテ軌道敷外ニ立ツヘシ

乗合自動車ヲ待合ハス者ハ車道ニ出ツヘカラス

第二十八條 定員ヲ超エ又ハ乗用ニ供スル爲設備セラレタル箇所以外ニ乗車シ若ハ乗車セシムヘカラス但シ貨物自動車ニ在リテハ其ノ積荷ノ積卸ニ必要ナル人員ノ乗者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 進行中ノ車馬ニ乗降シ又ハ乗降セシムヘカラス

第三十條 横斷歩道ノ設ケアル場所ニ在リテハ其ノ區域外ニ於テ車道ヲ横斷スヘカラス

第三十一條 百人以上伍隊ヲ組ミ又ハ行列ヲ爲シ道路ヲ進行セムトスルトキハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ但シ祭葬、講社、學生々徒ノ隊伍、行列其ノ他慣行アルモノニ付テハ出發地所轄警察官署ノ許可ヲ得テ

本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

- 一 百人以下毎ニ一隊トナシニ列乃至四列側面縱隊ヲ組織スルコト
- 二 各隊ニハ二人以上ノ監督者ヲ附スルコト
- 三 各隊間ニハ五米(二間四尺)以上ノ間隔ヲ保ツコト
- 四 旗幟、提燈、萬燈ノ類ヲ携帯スルトキハ其ノ高サ三米(一間四尺)以内ニシテ一人ニテ容易ニ携帯シ得ヘキモノタルコト

第三十二條 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス隊伍行列ニ關シ遵守事項ヲ命スルコトヲ得

第三十三條 警察官吏ノ承認ヲ受ケタル場合ノ外道路ニ於テ演藝、演說、說教其ノ他人寄セノ行爲ヲ爲スヘカラス沿道ノ場所ト雖モ因テ道路ニ於ケル交通ノ妨ケトナルヘキ場合亦同シ

第三十四條 道路ニ廣告宣傳ビラ等ヲ散布スヘカラス

第三十五條 車馬ヲ特ニ裝飾シテ廣告、宣傳等ノ目的ヲ以テ通行スヘカラス

第三十六條 左ニ掲クル行爲ヲナサムトスルトキハ其ノ目的、方法、期間及區域又ハ場所ヲ具シ所轄警察官署(第八號乃至第十二號ノ場合ハ出發地所轄警察官署)ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

- 一 道路ニ工事ヲ施サムトスルトキ
- 二 道路ニ於テ作業ヲ爲サムトスルトキ
- 三 工事ノ爲道路ニ竹木、土石其ノ他ノ材料ヲ置キ又ハ掛出、板圍、繩張、足代、支柱等ヲ設ケムト

スルトキ

四 道路ニ幟杭、舞臺、掛小屋等ヲ設ケムトスルトキ

五 道路ニ電柱、揭示板、廣告札、榜標、柵欄、街燈、飾門、飾塔、跨道ノ類ヲ設ケムトスルトキ

六 道路ニ屋臺店ノ類ヲ出サムトスルトキ

七 道路ニ於テ寄附金品ヲ募集シ又ハ物件ヲ販賣若ハ交付セムトスルトキ

八 道路ニ神輿、山車、踊屋臺等ヲ出サムトスルトキ

九 廣告、宣傳等ノ爲旗幟、看板、行燈等ヲ用キ通行セムトスルトキ

十 異様ノ扮装ヲ爲シ又ハ數人連行樂器ヲ鳴ラシ通行セムトスルトキ

十一 道路ニ於テ特別ノ設備ニ依リ車馬ヲ牽引シ又ハ物件ヲ移轉若ハ運搬セムトスルトキ

十二 道路ニ於テ徒歩競争ヲ爲サムトスルトキ

十三 前各號ノ外交通ノ妨ケトナルヘキ方法ニ依リ道路ヲ使用セムトスルトキ

第三十七條 道路管理者ヨリ道路占用ノ許可又ハ承認ヲ受ケタル者ト雖前條ノ許可ヲ受クルニアラサルハ其ノ占用ヲ開始スルコトヲ得ス

第三十八條 道路ニ工事ヲ施ス者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 工事區域ハ工事ニ直接必要ナル限度ニ止ムルコト
- 二 工事區域ハ掘上土砂、機械、器具、材料等ノ置場並復舊工事未完成ノ部分ヲ合シ左ノ制限ヲ超エサルコト

イ 延長

電線路埋設工事ニ在リテハ七百二十七米二七(四百間)但シ掘抗ハ三百六十三米六四(二百間)
軌道工事ニ在リテハ三百六十三米六四(二百間)
管路埋設工事ニ在リテハ二百七十二米七三(百五十間)但シ掘抗九十米九一(五十間)

ロ 幅員

道路幅員ノ六分ノ一

- 三 敷工區同時ニ工事ヲ行フトキハ各工區間ニ五十四米五四(三十間)以上ノ距離ヲ保ツコト
- 四 前二號ニ依リ難キトキ又ハ一工區ノ工事十日以上ニ亙ルトキハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルコト
- 五 道路ヲ横斷シテ工事ヲ行ハムトスルトキハ之ヲ兩分シ其ノ一半ヲ終リタル後ニ非サレハ他ノ一半ニ着手セサルコト但シ已ムヲ得サル場合ニシテ交通上支障ナカラシムル爲架梁其ノ他適當ナル設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 六 建設場ノ出入口ニ接近シテ工事ヲ行フトキハ出入ニ支障ナカラシムル爲適當ナル措置ヲ爲スコト
- 七 消火栓ノ位置ヲ變換シ又ハ消火栓ニ接近シテ道路ヲ掘鑿スルトキハ適當ナル標識ヲ以テ其ノ位置ヲ明示スルコト
- 八 土砂又ハ材料ノ類ヲ以テ消火栓、マンホール人孔等ヲ掩蔽シ又ハ下水ノ疏通若ハ路面並街渠ノ排水ヲ妨害セサルコト
- 九 湧水、溜水等ヲ路面ニ溢水セシメサルコト

十 工事終リタルトキハ遲滞ナク交通上支障ナキ状態ニ復スルコト

十一 工事ニ著手シタルトキ及前號ノ状態ニ復シタルトキハ直ニ所轄警察官署ニ其ノ旨届出ツルコト

十二 工事現場ニハ起業者及請負人ノ住所、氏名並工事ノ期間ヲ標示スルコト

第三十九條 道路ニ商品、商品棚、塵芥容器等ヲ置キ又ハ軒、標旗、標燈、看板、物干、日除、雨除、煙突等ヲ突出セシムヘカス但シ標旗、標燈、看板、日除、雨除ノ類ヲ路面上ニ二米四二(一間二尺)以上ノ高さニ於テ六十一纏(二尺)以内突出セシムルハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依ル日除、雨除ハ布類ヲ用キ構造裝置上危險ノ虞ナカラシメ必要ナキトキハ之ヲ捲收スヘシ
日除、雨除ニ關シテハ人家連檐セサル場所ニ限り所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第四十條 露店ハ所轄警察官署ニ於テ指定シタル區域内ニ非サレハ之ヲ出スコトヲ得ス

第四十一條 露店ヲ出ス者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 各店ハ間口二米(約一間)奥行一米(三尺三寸)以内タルコト
- 二 十二米(六間三尺)毎一米(三尺三寸)以上ノ間隔ヲ保ツコト
- 三 道路ノ交叉點、曲角、横斷歩道又ハ電車停留場側ニ於テ其ノ標示柱ヨリ十一米(六間)以内ニ出店セサルコト
- 四 火災報知機、消火栓、マンホール人孔等ヨリ三米(一間四尺)以内ニ出店セサルコト

- 五 路次又ハ建設物ノ出入口ヲ閉塞セサルコト
- 六 糶賣ヲ爲ササルコト
- 七 魚貝其ノ他腐敗シ易キモノヲ販賣セサルコト
- 八 道路ヲ汚損セサルコト
- 九 午後十一時以迄ハ閉店スルコト
- 第四十二條 所轄警察官署ハ露店ヲ出ス者ニ對シ前條ノ外取締上必要ト認ムル事項ヲ命スルコトヲ得
- 第四十三條 道路ニ於テ車馬ニ依リ入畜ヲ殺傷シ又ハ他人ノ物件ヲ損壞シタルトキハ過失ノ何レニアルヲ問ハス直ニ停止シ警察官吏ノ指揮ヲ受クヘシ
- 前項ノ場合警察官吏アラサルトキハ被害者ノ救護其ノ他必要ナル措置ヲ爲シタル後自己及雇主ノ住所、氏名(法人ニアリテハ其ノ名稱、事務所所在地)ヲ被害者若ハ其ノ同伴者ニ告知シ且其ノ事實ヲ最寄警察官吏ニ申告スヘシ
- 前二項ノ措置ヲ爲スニ付乗客ハ之ヲ妨クヘカラス
- 第四十四條 本令ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ本令ノ規定ニ依ル許可ノ條件ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス其ノ違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者亦同シ
- 第四十五條 法人ニ在リテハ本令ノ罰則ハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附 則

第四十六條 本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 第四十七條 明治三十三年六月警視廳令第二十五號道路取締規則ハ之ヲ廢止ス
- 第四十八條 道路取締規則ノ規定ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ本令ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第四十九條 本令施行ノ際第四十一條各號ノ事項ニ異リタル慣行アルモノニ付テハ大正十七年十二月三十一日迄其ノ慣行ニ從フコトヲ得

自動車取締令施行細則

(昭和三年七月三日
警視廳令第二十八號)

自動車取締令施行細則

第一章 通則

第一條 本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

- 一 輕自動車トハ乗車定員八人以下ノ乗用自動車及積載定量千疋(約一噸)未滿ノ貨物自動車ヲ謂フ
- 二 重自動車トハ乗車定員九人以上ノ乗用自動車及積載定量千疋(約一噸)以上ノ貨物自動車ヲ謂フ
- 三 特種自動車トハ側車付自動自轉車其ノ他特ニ簡單ナル構造ノ自動車ヲ謂フ
- 四 作業自動車トハ乗客又ハ積荷ヲ運搬スル構造ヲ有セス作業ヲ爲スコトヲ目的トスル自動車ヲ謂フ
- 五 多輪自動車トハ荷重ヲ分ツ車軸三個以上ヲ有スル自動車ヲ謂フ
- 六 牽引自動車トハ乗客又ハ積荷ヲ運搬スル構造ヲ有セス他ノ車輛ヲ牽引スルコトヲ目的トスル自動車ヲ謂フ
- 七 牽引車トハ牽引自動車ニ牽引セラルルコトヲ目的トスル車輛ヲ謂フ
- 八 乗車定員トハ乗用自動車ニ乗車スルコトヲ當廳ニ於テ認メタル人員ヲ謂フ
- 九 乗客定員トハ乗用自動車ノ乗車定員ヨリ運轉手、助手及車掌ヲ控除シタル人員ヲ謂フ

- 十 積載定員トハ貨物自動車ノ構造上積載シ得ル積荷ノ重量ヲ謂フ
 - 十一 許容積載量トハ貨物自動車ニ積載スルコトヲ當應ニ於テ認メタル積荷ノ重量ヲ謂フ
 - 十二 道路トハ交通取締規則第一條ニ規定スル道路ヲ謂フ
 - 十三 道路ノ幅員トハ有効幅員ヲ謂フ
 - 十四 車庫トハ自動車ノ格納ニ使用スル建物ヲ謂フ
建物ノ一部ヲ自動車ノ格納ニ使用スル場合ニ於テハ其ノ部分ヲ車庫ト看做ス
側車附自動車ノ類ヲ二輛以下又ハ商品ノ類若ハ電氣原動機ヲ用フルモノニシテ揮發石油ヲ貯有セサル自動車ヲ格納スルモノハ車庫ト看做サス
 - 十五 自動車ニ依ル運輸營業ノ營業所トハ營業ノ爲自動車ヲ常置スル場所ヲ謂フ但シ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノニ在リテハ其ノ主タル事務所ヲ營業所ト看做ス
 - 十六 自動車ノ賃貸業トハ自己ノ自動車ヲ他人ニ賃貸スル營業ヲ謂フ
 - 十七 車庫ノ賃貸業トハ他人ノ自動車ヲ自己ノ車庫ニ格納シ又ハ自己ノ車庫ノ全部若ハ一部ヲ他人ニ賃貸スル營業ヲ謂フ
- 本令ニ於ケル車庫ノ構造設備ニ關スル規定ノ用語ハ市街地建築物法施行規則ノ例ニ依ル
- 第二條 自動車ハ左ノ制限ニ依ル道路ニ非サレハ通行スルコトヲ得ス但シ車輛ノ幅員一米六七 約五尺五寸)長三米(約十尺)未滿ノ自動車ニ在リテハ其ノ幅員ノ二倍半以上ノ幅員ヲ有スル道路ヲ通行スルコトヲ得

- 一 人家連檐ノ場所ニシテ歩車道ノ區別アル道路ニ在リテハ車道ノ幅員五米(約二間半)以上ノモノ
- 二 人家連檐ノ場所ニシテ歩車道ノ區別ナキ道路ニ在リテハ道路ノ幅員六米(約三間)以上ノモノ
- 三 人家連檐セサル場所ニ在リテハ歩車道ノ區別ノ有無ヲ問ハス道路ノ幅員自動車ノ幅員ノ二倍半以上ノモノ

所轄警察署長ノ許可又ハ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス通行スルコトヲ妨ケス

第三條 自動車ノ速度ハ一時間ニ付左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス但シ交通稀疎ニシテ他ニ危害ヲ及ホス虞ナキ場合ニ於テハ一時間ニ付各制限ヨリ八分(約五哩)以内超過スルコトヲ妨ケス

道路別	自動車別	輕自動車	重自動車	作業自動車 多輪自動車 牽引自動車
歩車道ノ區別アル道路ニシテ車道ノ幅員十一米(約六間)以上ノモノ	特殊自動車	三十二斤 (約二十哩)	二十六斤 (約十六哩)	十九斤 (約十二哩)
歩車道ノ區別アル道路ニシテ車道ノ幅員六米(約三間)以上ノモノ若ハ歩車道ノ區別ナキ道路ニシテ其ノ幅員八米(約四間半)以上ノモノ	輕自動車	二十四斤 (約十五哩)	十九斤 (約十二哩)	十六斤 (約十哩)
歩車道ノ區別アル道路ニシテ車道ノ幅員六米(約三間)未滿ノモノ若ハ歩車道ノ區別ナキ道路ニシテ其ノ幅員八米(約四間半)未滿ノモノ	重自動車	十九斤 (約十二哩)	十六斤 (約十哩)	十三斤 (約八哩)

重自動車、作業自動車、多輪自動車及牽引自動車ニ在リテハ午前零時ヨリ出迄ノ間ニ於テ人家連檐ノ場所ヲ通行スルトキハ一時間ニ付十三軒(約八哩)以内ノ速度タルコトヲ要ス

公共營造物ノ應急修理ヲ行フ爲使用スル作業自動車ハ本條ノ適用ニ關シ之ヲ輕自動車ト看做ス

第四條 第二條第二項ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ受ケタル道路、交通頻繁ナル場所、橋斷歩道上、公園内又ハ特ニ除行ヲ命セラレタル箇所ニ在リテハ前條ノ規定ニ拘ラス除行スルコトヲ要ス學校又ハ病院ノ附近ヲ通過スルトキ亦同シ

第五條 消防自動車及自動車専用道路ヲ通行スル自動車ニ關シテハ前三條ノ規定ヲ適用セス

第六條 自動車ノ大サハ左ノ制限ヲ超エルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルモノハ許可ヲ受ケ本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

一 輕自動車

長 五米五〇 (十八尺一寸五分)

幅 二米 (六尺六寸)

高 三米 (九尺九寸)

二 重自動車

長 六米 (十九尺八寸)

幅 二米二〇 (七尺二寸六分)

高 三米 (九尺九寸)

三 特種自動車

長 四米 (十三尺二寸)

幅 二米 (六尺六寸)

高 二米 (六尺六寸)

四 作業自動車及多輪自動車

長 七米 (二十三尺一寸)

幅 二米二〇 (七尺二寸六分)

高 三米 (九尺九寸)

五 牽引自動車(被牽引車ヲ連結シ)

長 九米 (二十九尺七寸)

幅 二米二〇 (七尺二寸六分)

高 三米 (九尺九寸)

第七條 自動車又ハ被牽引車ノ積載量ハ車輛ノ重量ヲ合セ五千二百五十瓩(約千四百貫)ヲ超ユルコトヲ得ス但シ多輪自動車ニシテ一車軸ノ荷重二千六百二十五瓩(約七百貫)ヲ超エサルトキ若ハ無限軌道ヲ裝置スル自動車ニシテ其裝置ノ幅員三纏(約一丈)ニ付荷重三百七十五瓩(約百貫)ヲ超ヘサルトキ又ハ公共營造物ノ維持修繕ヲ行フ爲使用スル作業自動車ニシテ特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス前項但書ノ場合ト雖モ總重量七千八百七十五瓩(約二千百貫)ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 牽引自動車ニ依リ被牽引車ヲ牽引スル場合ノ外自動車ニ依リ他ノ車輛ヲ牽引スルコトヲ得ス但シ故障自動車ヲ牽引スルハ此ノ限ニ在ラス

故障自動車ヲ牽引スル場合ニ於テハ牽綱ノ長ハ五米(十六尺五寸)以内トシ牽引セラルル自動車ニハ之ヲ操向又ハ制動スル爲運轉手ヲ附スヘシ

第九條 自動車ニ依リ二輛以上ノ車輛ヲ牽引シ又ハ綱、鎖ノ以テ被牽引車ヲ牽引スヘカラス

第十條 自動車ハ車庫以外ノ場所ニ之ヲ格納スヘカラス但シ商品ノ類若ハ電氣原動機ヲ用フルモノニシテ揮發石油ヲ貯有セサル自動車ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

側車附自動自轉車ノ類ハ二輛以下ノ場合ニ限り之ヲ車庫以外ノ場所ニ格納スルコトヲ得

第二章 車 輛

第十一條 自動車取締令第五條ノ規定ニ依リ自動車ノ検査ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ願出ツヘシ

- 一 出願者ノ住所、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名)
- 二 車輛ノ種類及名稱
- 三 用途(營業用ナルトキハ營業ノ種別)
- 四 車輛ノ寸法及重量並車匡ノ型、長(内法)及幅(内法)
- 五 乗車定員又ハ積載定量
- 六 原動機ノ種類及式並著火裝置

- 七 氣筒ノ數、其ノ内徑及衡程
- 八 燃料油槽ノ容積
- 九 馬力數
- 十 機關ノ製造所及製造年月
- 十一 機關番號
- 十二 格納車庫ノ所在地(他人ノ車庫ニ格納スル場合ニ於テハ其ノ承諾書ヲ添付スルコト)
- 第十三條 検査ニ合格シタルトキハ之ヲ證明スル爲検査證ヲ交付ス検査證ハ運轉臺ノ踏易キ箇所ニ之ヲ標示スヘシ但レ車輛ノ構造上之ニ依リ難キモノニ在リテハ當該官吏ノ指示ニ從フヘシ
- 第十四條 検査證ノ有効期間ハ検査ノ際之ヲ定メ検査證ニ記載ス
- 第十五條 検査證ヲ提示シテ更ニ自動車ノ検査ヲ受クヘシ
- 第十六條 前項ノ検査ニ合格シタルトキハ検査證ノ有効期間ヲ更新ス
- 第十七條 自動車取締令第九條ノ規定ニ依リ施行スル検査ニ應セサルトキハ検査證ノ效力ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十八條 検査證ノ有効期間滿了シ又ハ其ノ效力ヲ取消サレタルトキハ其ノ自動車ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第十九條 自動車ノ車輛番號ハ當廳ノ指定スル寸法及様式ニ依リ明瞭ニ之ヲ標示スヘシ

第十八條 被牽引車ニハ其ノ後面踏易キ箇所ニ牽引自動車ト同一ノ車輛番號ヲ標示スヘシ

前項ノ車輛番號ハ夜間五十五米(約三十間)ノ距離ニ於テ明瞭ニ認メ得ヘキ燈火ヲ以テ照射スヘシ
被牽列車ニハ夜間後面ニ赤色ノ燈火ヲ點スヘシ

第十九條 自動車ノ構造裝置並其ノ積荷ハ安定シテ運轉上必要ナル視野ヲ妨ケサルモノタルコトヲ要ス
第二十條 消防自動車、郵便自動車及特種自動車以外ノ自動車ハ赤色又ハ溜色ニ塗ルコトヲ得ス但シ特
ニ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 自動車ニハ面ノ長車軸ノ直徑ノ三分ノ二以上高十五糎(約五寸)以上ノ泥除ヲ備フヘシ
泥除ハ路面トノ距離六糎(約二寸)以内ニ之ヲ取付ケ翻轉又ハ廻轉セサルモノタルコトヲ要ス

第二十二條 自動車ニ裝置スル音響器ハ軟調ノ喇叭音ヲ發スルモノタルコトヲ要ス但シ消防自動車ハ此
ノ限ニ在ラス

第二十三條 自動車ノ前面燈火ハ車輛ノ左右兩端ニ之ヲ取付ケ通行者ヲ眩惑セシメサル様適當ナル調光
裝置ヲ施スヘシ

後面燈火ハ赤色ノモノタルコトヲ要ス但シ車輛番號ヲ照射スル方面ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 作業自動車又ハ牽引自動車以下ノ自動車ハ護謨製以外ノ轍ヲ使用スルコトヲ得ス

護謨製以外ノ轍ヲ使用スルモノハ其ノ輪體幅十二糎(約四寸)以上タルコトヲ要ス被牽引車ニ付亦同シ
「ソリッドタイヤ」ハ其ノ厚四糎「約一寸三分」以上トシ缺損シテ原形ヲ失フニ至リタルモノハ之ヲ使
用スルコトヲ得ス

第二十五條 特種自動車、作業自動車又ハ牽引自動車ニ在リテハ當職ニ於テ支障ナシト認ムル場合ニ限
リ自動車取締令第四條第二號、第三號及第八號ニ規定スル構造裝置ノ一部又ハ全部並本令第二十一條
ニ規定スル泥除ノ裝置ヲ省略スルコトヲ得

第二十六條 乗客運輸營業ニ使用スル自動車ニ在リテハ客室内ニ相當ノ光力ヲ有スル燈火ヲ設備スヘ
シ

第二十七條 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル 乗客運輸營業ニ使用スル自動車ニ在リテハ左ノ各號ニ依ルヘ
シ

一 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル 乗客運輸營業ニ使用スル自動車タルコトヲ車體ノ外部ニ表示スルコト

二 明瞭ニ行先ヲ標示スル設備ヲ爲スコト

三 出入口ヲ車體ノ左側ニ設クルコト

四 立席ヲ設クルモノニ在リテハ客室内ノ高一米七三(約五尺七寸)以上トシ釣革其ノ他適當ナル設備
ヲ爲スコト

五 座席ハ其ノ定員一人ニ付幅員四五糎(約一尺四寸)以上ト爲スコト

六 立席ハ其ノ定員一人ニ付零平方米二八(約三平方尺)以上ト爲スコト

第二十八條 前二條ノ規定ハ第八十五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ公衆ノ運輸ニ使用スル自動車ニ之ヲ準
用ス

第二十九條 貨物自動車ニ在リテハ車體ノ後面踏易キ箇所ニ其ノ積載定量ヲ表示スヘシ

許容積載量積載定量ト異ルトキハ其ノ許容積載量ヲ併セ表示スルコトヲ要ス

第三十條 自動車取締令第六條第一項ノ規定ニ依ル届書ニハ本令第十一條各號ノ事項ヲ具シ前使用地ノ地方長官ヨリ交付セラレタル検査證ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十一條 自動車取締令第六條第二項ノ規定ニ依ル届出ハ双方連署ノ上検査證ノ寫ヲ添ヘ之ヲナスヘシ但シ連署シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ説明スルコトヲ要ス

他ノ廳府縣ニ於テ検査證ヲ受ケタル車輛ヲ讓受又ハ相續シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ルノ外前條ノ規定ニ準シ届出ヲ爲スヘシ

第三十二條 自動車取締令第七條ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケムトスル者ハ構造裝置ノ變更シタル部分ヲ明記シ検査證ノ寫ヲ添ヘ願出ツヘシ

第三十三條 自動車ノ使用者ニシテ其ノ住所、氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名)車輛ノ用途若ハ格納車庫ヲ變更シタルトキ又ハ使用車輛ヲ滅失シタルトキハ車輛ノ用途及車輛番號ヲ記シ其ノ旨届出ツヘシ

變更シタル車庫ニシテ他人ノモノナルトキハ其ノ承諾書ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十四條 自動車ノ乗車定員若ハ乘客定員又ハ積載定量ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 検査證ノ有効期間滿了シ又ハ其ノ效力ヲ取消サレタルトキハ直ニ検査證ヲ返納スヘシ前項ノ場合ニシテ料金表ヲ交付セラレタルモノナルトキハ之ヲ返納スルコトヲ要ス自動車ノ用途ヲ變更シ料金表ヲ要セサルニ至リタルトキ亦同シ

第三十六條 検査又ハ試運轉若ハ運搬等ノ爲一時自動車ヲ使用セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ自動車所

在地所轄警察署長ニ願出テ試運轉標板ノ貸與ヲ受クヘシ

一 出願者ノ住所、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名)

二 目的

三 運轉日時

四 運轉順路

五 運轉手ノ氏名

試運轉標板ハ運轉中車輛ノ前面及後面諸易キ箇所ニ之ヲ標示シ運轉終了シタルトキハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第三十七條 自動車ノ検査ヲ受クル際ハ當該官吏ノ指示ニ從フヘシ當該官吏ニ於テ必要アリト認めタルトキハ機械、器具ノ分解ヲ要求スルコトアルヘシ

第三章 車庫

第三十八條 車庫ヲ設置セムトスルモノ左ノ事項ヲ具シタル願書正副二通ヲ提出シ許可ヲ受クヘシ之ヲ増築、改築、移轉、變更又ハ大修繕ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

一 出願者ノ住所氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名)

二 敷地ノ地名 番號

三 敷地附近ノ略圖(周圍五十米(約二十七間半)以上)

四 用途(自家用又ハ營業用ノ別)

五 車庫ノ室面積、格納スヘキ車輛ノ數及種類

六 建物及附屬設備ノ配置圖(縮尺百分ノ一又ハ二百分ノ一)半面圖(縮尺五十分ノ一又ハ百分ノ一)及主要部分ノ斷面圖(縮尺二十分ノ一、五十分ノ一又ハ百分ノ一)

七 建物及附屬物設備ノ仕様書

八 消火設備ノ種類及數量

九 起工期日及竣功期日

前項ノ願書ハ車庫ノ設置場所市街地建築物法適用區域内ナルトキハ同法令ニ依ル圖書ヲ併セ提出スヘシ但前項各號ノ事項ニシテ重複スルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十九條 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノニシテ第四十條ノ規定ニ依ル認可ヲ受クル前前條第一項第四號乃至第九號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係圖書ヲ具シ願出認可ヲ受クヘシ

第四十條 車庫ノ工事竣功シタルトキハ届出テ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十一條 前條ニ規定スル認可ヲ受ケタル後其ノ車庫ニ付左ノ各號ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受クヘシ

一 用途

二 格納スヘキ車輛ノ數及種類

三 消火設備ノ種類及數量

第四十二條 車庫ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ双方連書ノ上其ノ旨届出ツヘシ但シ連署シ能ハサルトサハ其ノ理由ヲ疏明スルコトヲ要ス

第四十三條 車庫ノ使用ヲ廢止シタルトキハ届出ツヘシ建物ヲ滅失シタルトキ亦同シ

第四十四條 起工期日ヲ經過スルコト九十日ニシテ起工セス又ハ竣功期日ヲ經過シ尙竣功セサルトキハ第三十八條ノ規定ニ依リ爲シタル許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四十五條 車庫ノ構造設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ
一 室面積百平方米(約三十坪)以上ノモノ又ハ三階以上ノ建物内ニ設クルモノニ在リテハ其ノ壁體、柱、階段、屋根又ハ直上階ノ床ヲ耐火構造ト爲スコト

二 室面積五十平方米(約十五坪)以上ノモノニ在リテハ其ノ外壁ヲ耐火構造トナシ屋根又ハ直上階ノ床ハ耐火構造ニ非サルトキハ不燃材料ヲ以テ構成スルコト但シ不燃材料ヲ以テ被覆セル天井ヲ設クルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

三 前二號ニ規定スル車庫ノ外壁ノ窓及出入口ノ扉ハ鐵骨網入硝子造ト爲スコト但シ其ノ面スル隣地境界線、隣接建物若ハ道路ノ對側ニ在ル建築線ヨリ六米(約三間)以上ノ距離ヲ有スルモノ又ハ甲種防火戸ヲ備フルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

四 室面積五十平方米(約十五坪)未滿ノモノニ在リテハ其ノ内面ヲ不燃材料ヲ以テ被覆スルコト

- 五 建物ノ一部ヲ車庫ト爲スモノニ在リテハ之ト他ノ用途ニ供スル部分トヲ壁體ヲ以テ區劃シ他ノ用途ニ供スル部分ニハ車庫ヲ通過セスシテ容易ニ屋外ニ出ツルコトヲ得ヘキ階段又ハ出入口ヲ設クルコト
 - 六 前號ノ壁體ニ開口ヲ設クル場合ニ於テハ其ノ大一平方米六五(約十八平方尺)以下トシ甲種防火戸ヲ設クルコト但シ三階以上ノ建物内ニ設クルモノヲ除キ車庫ノ室面積五十平方米(約十五坪)未滿ノモノニ在リテハ之ヲ鐵骨網入硝子戸又ハ乙種防火戸ト爲スコトヲ得
 - 七 車庫ノ床又ハ其ノ直上階ノ床ニハ他ノ用途ニ供スル部分ニ通スヘキ開口ヲ設ケサルコト
 - 八 車庫ハ壁ノ下部ニ適當ナル排氣設備ヲ爲スコト但シ當廳ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 九 床ハ「コンクリート」造其ノ他當廳ニ於テ適當ト認ムル構造ト爲スコト
 - 十 車庫ノ内部ニ間壁アル場合ハ之ヲ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ被覆スルコト
- 前項第五號ノ壁體ハ之ヲ車庫ノ外壁ト看做ス
- 第四十六條 車庫内ニ於テハ可搬式安全油槽又ハ地下埋設油槽ニ連絡スル漏洩ノ虞ナキ唧筒管ニ依ルノ外自動車ニ給油ヲ爲スヘカラス
- 第四十七條 車庫ニ備フル消火設備ハ常ニ其ノ機能ヲ完全ナラシムヘシ
- 第四十八條 車庫内ニ於テハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 車庫使用者ノ住所、氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名)並當時格納スヘキ車輛ノ數及格納車輛ノ車輛番號並其ノ擔當運轉手ノ氏名ヲ記シタル標板ヲ睹易キ箇所ニ掲グルコト
 - 二 安全ナル燈火ノ外火氣ヲ使用セサルコト
 - 三 喫煙ヲ爲ササルコト
 - 四 燃燒シ易キモノヲ貯藏セサルコト
 - 五 自動車ノ格納以外ニ使用セサルコト
- 第四十九條 車庫ニシテ交通上其ノ他公安上危害ヲ生スル虞アリト認ムルトキハ特別ノ構造設備其ノ他ノ事項ヲ命シ又ハ其ノ使用ノ停止若ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ

第四章 營業

- 第五十條 自動車取締令第十二條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ願出ツヘシ
- 一 營業者ノ本籍、住所及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、定款ノ寫及代表者ノ氏名)
 - 二 稱 號
 - 三 營業ノ種別
 - 四 營業所ノ所在地
 - 五 使用車輛ノ數
 - 六 使用車輛ノ乗客定員又ハ積載定量
 - 七 料金額
- 一定ノ路線又ハ區間ニ依ルモノニ在リテハ前項各號ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ具シタル願書正副

- 二 通ヲ提出スヘシ
- 一 營業ノ路線又ハ區間及其ノ主タル經過地
- 二 停車場ノ名稱及此ヲ設クル場所ノ地名、番號並各停車場間ノ距離
- 三 使用車輛ノ寸法及重量
- 四 運轉系統及其ノ配車數
- 五 營業時間及發車時刻
- 六 營業路線圖(陸地測量部發行ノ地圖ニ記入シタルモノ)
- 七 資本金額及出資方法
- 八 收支計算見積書

第五十一條 自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營ム者前條第一項第三號乃至第五號及第七號並第二項第一號乃至第五號ニ規定スル事項ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受クヘシ

前條第一項第一號及第二號並第二項第七號ニ規定スル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨届出ツヘシ

第五十二條 自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營ム者ハ其ノ料金ニ關シ許可ヲ受ケタルモノト異ナル事項又ハ他ニ紛ラハシキ事項ヲ表示スヘカラス

第五十三條 一定ノ路線又ハ區間ニ據リ乘客運輸營業ヲ爲スモノノ外同一ノ自動車ニ他ノ乘客ヲ乗車セシメ別箇ニ料金ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十四條 乘客運輸營業ニ使用スル自動車ニ在リテハ客室内ノ賭易キ箇所ニ當廳ノ交付スル料金表ヲ

掲ケ且之ヲ適當ニ照明シ得ル裝置ヲ爲スヘシ但シ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 毀損シタル料金表又ハ他ノ車輛ノ料金表ヲ掲ケテ營業スヘカラス

第五十六條 自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營ム者又ハ自動車ノ賃貸業若ハ車庫ノ賃貸業ヲ營ムモノハ許可ヲ受ケタル額ト異ナル料金ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 乘客運輸營業ニ使用スル自動車ニシテ走行距離ニ依リ料金ヲ算定スルモノニ在リテハ乘客ノ賭易キ箇所ニ「タキシメーター」ヲ裝置スヘシ

「タキシメーター」ヲ裝置シ又ハ之ヲ變更シタルトキハ直ニ検査ヲ受クヘシ

「タキシメーター」ニシテ破損若ハ故障アルモノ又ハ料金表ニ記載スル額ト異ナル表示ヲ爲スモノヲ

使用スヘカラス

第五十八條 乘客運輸營業ヲ爲ス者又ハ其ノ自動車ヲ運轉スル者ハ乘客ノ請求アリタルトキハ行程、料金額、車輛番號並營業者及運轉手ノ住所、氏名ヲ記シタル受取證ヲ交付スヘシ但シ一定ノ路線區間ニ據ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 一定ノ路線又ハ區間ニ據リ乘客運輸營業ヲ爲ス者ハ乗車券ヲ發行スヘシ

乗客券ノ形式ヲ定メ又ハ此ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第六十條 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル乘客運輸營業ニ使用スル自動車ニハ車掌ヲ乗車セシムヘシ但シ車輛ノ構造ニ依リ其ノ必要ナキトキハ認可ヲ受ケ運轉手ヲシテ車掌ノ職務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第六十一條 一定ノ路線又ハ區間ニ據リ乘客運輸營業ヲ爲ス者ハ其ノ營業ニ從事スル運轉手、車掌及信

號人ノ服裝ヲ定ムヘシ

運轉手、車掌及信號人ノ服裝ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキハ様式ヲ具シ其ノ旨届出ツヘシ

第六十二條 一定ノ路線又ハ區間ニ據リ運轉營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ全部又ハ一部ノ運轉ヲ休止セムトスルトキハ理由及 間ヲ具シ願出テ許可ヲ受クヘシ

第六十三條 一定ノ路線又ハ區間ニ據リ運轉營業ヲ爲ス者ニシテ緊急ノ必要生シタルトキハ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケ通行路線、營業時間、發車時刻、停車場ノ位置又ハ運轉系統ヲ一時變更スルコトヲ得

第六十四條 自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營ム者ニシテ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノニ在リテハ營業開始十日前途ニ、其ノ他ノモノニ在リテハ營業開始後十日以内ニ開業期日ヲ届出ツヘシ

第六十五條 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル運輸營業ニシテ公安上危害ヲ生スル虞アリト認ムルトキハ信號人ノ配置、路線若ハ運轉系統ノ廢止、變更其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第六十六條 自動車ニ依ル運輸營業ノ免許ヲ讓受又ハ相續セントスル者ハ双方連署ノ上願出スヘシ但連署シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ説明スルコトヲ要ス

第六十七條 自動車ノ賃貸業ヲ營ム者ハ左ノ事項ヲ具シ願出テ免許ヲ受クヘシ

一 營業者ノ本籍、住所、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、定款ノ寫及代表者ノ氏名)

二 稱 號

三 營業ノ爲自動車ヲ常置スル場所

四 使用車輛數及其ノ種類

五 料金額

第六十八條 自動車ノ賃貸業ヲ營ム者前條第三號乃至第五號ニ規定スル事項ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受クヘシ

前條第一條及第二號ニ規定スル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨届出ツヘシ

第六十九條 自動車ノ賃貸業ヲ營ム者ハ其ノ車輛ノ構造裝置ニ付自動車取締令並本令ノ規定ニ違反セス且危害防止上異狀ナキコトヲ確メタル後ニ非サレハ之ヲ貸與スルコトヲ得ス

第七十條 車庫ノ賃貸業ヲ營ム者ハ左ノ事項ヲ具シ願出テ免許ヲ受クヘシ

一 營業者ノ本籍、住所、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、定款ノ寫及代表者ノ氏名)

二 稱 號

三 車庫ノ所在地

四 料金額

第七十一條 車庫ノ賃貸業ヲ營ム者前條第三號及第四號ニ規定スル事項ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受クヘシ

前條第一號及第二號ニ規定スル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨届出ツヘシ

第七十二條 車庫ノ賃貸業ヲ營ム者其ノ車庫ヲ賃貸シ又ハ自動車ヲ格納シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ届出シヘシ

- 一 車庫ノ賃借人又ハ格納車輛使用者ノ住所及氏名
- 二 格納車輛ノ車輛番號

前項ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨届出ツヘシ

第七十三條 自動車ノ賃貸業又ハ車庫ノ賃貸業ヲ讓受又ハ相續セムトスル者ハ双方連署ノ上願出テ許可ヲ受クヘシ但シ連署シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スルコトヲ要ス

第七十四條 自動車ノ賃貸業又ハ車庫ノ賃貸業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨届出ツヘシ

第七十五條 自動車ノ賃貸業又ハ車庫ノ賃貸業ヲ營ム者ニシテ本令ノ規定ニ違反シ又ハ營業ヲ繼續スルニ適セスト認メタルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ營業ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第五章 運轉手、車掌及其ノ他ノ從業員

第七十六條 自動車取締令第十五條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ願出ツヘシ但シ現ニ運轉手タル者ハ第二號及第三號ノ事項ヲ省略シ免許證ノ寫ヲ添付スヘシ

- 一 住所及氏名
 - 二 兵役ノ關係(徵收年齡、役種、兵種、官等級及所屬聯隊區名若ハ鎮守府名)
 - 三 戶籍抄本
 - 四 寫眞(出願前六ヶ月内ニ撮影シタル名刺形、無帽、半身、無臺紙)二枚
- 第七十七條 自動車取締令第二十條ノ規定ニ依ル届書ニハ前條第一號、第二號ニ規定スル事項及第四號ニ規定スル寫眞一枚ヲ具備スルコトヲ要ス

第七十八條 自動車取締令第十六條第二項及第二十一條第一項ニ規定スル試験ハ自動車運轉手試験規則ノ定ムル所ニ依ル

第七十九條 現ニ運轉手タル者ニシテ運轉手免許ノ有効期間滿了後仍引續キ運轉手タラムトスル者ハ有効期間滿了前六箇月内ニ左ノ事項ヲ具シ願出ツヘシ

- 一 本籍、住所、氏名及生年月日
 - 二 就業ニ關スル履歷
 - 三 免許證ノ寫
 - 四 寫眞(出願前六箇月内ニ撮影シタル名刺形、無帽、半身、無臺紙)二枚
- 第八十條 運轉手ニシテ本籍、住所若ハ氏名ヲ變更シ又ハ兵役關係ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨届出テ免許證ノ訂正ヲ受クヘシ
- 免許證ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ其ノ記載事項ヲ具シ寫眞(出願前六箇月内ニ撮影シタル名刺形、無帽、半身、無臺紙)一枚ヲ添付シ書替又ハ再交付ヲ受クヘシ
- 第八十一條 自動車ヲ運轉スル者ハ交通取締規則其ノ他交通ニ關スル法令ノ規定ニ依ルノ外左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 自動車ノ構造裝置並運轉及駐車ノ方法ニ付危害ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ怠ラサルコト
 - 二 他ニ迷惑ヲ及ボササルコト
 - 三 運轉中喫煙シ又ハ雜談ヲ爲ササルコト

- 四 汚水、泥土等ヲ飛散セシムル虞アルトキハ第二十一條ニ規定スル泥除ヲ裝置スルコト
 - 五 車輛番號ノ標示ヲ常ニ明瞭ナラシムルコト
 - 六 夜間ハ制規ノ燈火ヲ點シ且規定ノ光力ヲ保持セシムルコト
 - 七 警察官吏ノ命令、標識又ハ信號等ニ從フコト
 - 八 危險ナキコトヲ確メタル後ニ非サレハ軌道ヲ横斷シ他ノ車馬ヲ追越シ又ハ電車ノ側方ヲ通過セサルコト
 - 九 牛馬ニ近ツクトキハ速度ヲ緩メ之ヲ恐怖セシメサル様注意スルコト
 - 十 乗客ノ乗降又ハ積荷ノ積卸ヲ爲ストキハ路端若ハ步道ニ接近シテ停車スルコト
 - 十一 已ムヲ得スシテ交通頻繁ナル場所又ハ危險ノ發生スル虞アル場所ニ自動車ヲ駐メタルトキハ運轉臺ヲ離レサルコト
 - 十二 當該官吏ノ求メアリタルトキハ直ニ免許證ヲ提示スルコト
- 營業ノ爲使用スル自動車ヲ運轉スル者ハ前項各號ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 公衆ニ對シ乗車ヲ勸誘セサルコト
 - 二 許可ヲ受ケタル額ト異ル料金ヲ請求セサルコト
 - 三 正當ノ理由ナクシテ乗車ヲ拒ミ又ハ降車ヲ要求セサルコト
 - 四 乗客ノ求ナキ場所ニ到リ又ハ故意ニ迂路ヲ採ラサルコト
 - 五 其ノ氏名ヲ客室内賭易キ箇所ニ掲クルコト

六 服裝ノ定アルモノハ其ノ制服ヲ著用スルコト

第八十二條 車掌ハ就業中前條第二項第一號乃至第三號、第五號及第六號ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 停車場以外ノ場所ニ於テ乗客ヲ乗降セシメサルコト
 - 二 運轉中ノ車輛ニハ其ノ行先ヲ明瞭ニ標示スルコト
 - 三 乗客ノ數定員ニ滿チタルトキハ車輛ノ前面ニ其ノ旨標示スルコト
- 第八十三條 車掌及信號人ハ十六歳以上ノ者タルコトヲ要ス
- 第八十四條 運轉手ニシテ本令其ノ他交通ニ關スル法令ノ規定ニ違反シ處罰セラレタルトキハ其ノ旨免許證ニ記載ヲ受クヘシ
- 一 箇年内ニ累ネテ處罰ヲ受ケタルコトナキトキハ前項ノ規定ニ依ル記載事項ノ抹消又ハ免許證ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第六章 雜則

第八十五條 一定ノ路線又ハ區間ニ據リ自動車ヲ運轉シ之ヲ營業トセスシテ公衆ノ運輸ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ願出テ許可ヲ受クヘシ

- 一 出願者ノ本籍、住所、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名)
- 二 運轉路線又ハ區間
- 三 使用車輛ノ數、寸法、重量及乗客定員

四 運轉時間及發車時刻

第八十六條 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者前條第二號乃至第四號ニ規定スル事項ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受クヘシ其ノ住所、氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地代表者ノ氏名）ヲ變更シ又ハ運轉ヲ休止若ハ廢止シタルトキハ其ノ旨届出ツヘシ

第八十七條 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル乗客運輸ニ使用スル自動車ノ乗客ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 喫煙、放歌、喧噪其ノ他他人ノ迷惑トナルヘキ行爲ヲ爲ササルコト

二 臭氣ヲ發散シ其ノ他他人ノ迷惑トナルヘキ物件又ハ畜類ヲ携帯セサルコト

三 運轉中運轉手ニ話掛ケサルコト

四 運轉手若ハ車掌又ハ警察官吏ヨリ降車ヲ要求セラレタルトキハ直ニ之ニ應スルコト

公安、衛生其ノ他取締上必要アリト認ムルトキハ前項各號ノ外遵守事項ヲ命スルコトアルヘシ

第八十八條 四歳未満ノ者ハ自動車ノ乗客定員及乗車料金ニ關シ之ヲ計算セス

第八十九條 自動車検査證若ハ料金表ヲ毀損シ又ハ其ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ願出テ書替又ハ訂正ヲ受クヘシ

自動車検査證若ハ料金表ヲ滅失シタルトキハ其ノ記載事項ヲ具シ願出テ再交付ヲ受クヘシ

第九十條 自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營ム者ハ地區ヲ定メ其ノ地域内ニ營業所ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ組合ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合ヲ設ケントスルトキハ規約ヲ定メ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同

シ

第九十一條 前條第二項ノ規定ニ依リ認可アリタルトキハ其ノ地域内ニ營業所ヲ有スル營業者ハ其ノ組合ニ加入スルコトヲ要ス

第九十二條 組合ハ左ノ事項ニ關シ届出ヲ爲スヘシ

- 一 役員ノ選任又ハ改選
- 二 事業ノ成績（一箇月分毎ニ）
- 三 總會及役員會ノ決議事項
- 四 豫算及收支ノ決算
- 五 解散

第九十三條 必要アリト認ムルトキハ組合ノ事業又ハ會計ヲ検査スルコトアルヘシ

検査ニ關シ必要ナル材料ノ提出ヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十四條 組合ノ事業ニシテ其ノ目的ニ反シ又ハ決議若ハ會計經理ニシテ不當ト認ムルトキハ必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第九十五條 公安上又ハ組合ノ目的遂行上必要アリト認ムルトキハ組合ノ解散ヲ命シ又ハ役員ノ改選若ハ規約ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第九十六條 自動車取締令第十四條及本令第五十條、第五十一條、第五十九條乃至第六十二條、第六十四條、第六十六條乃至第六十八條、第七十三條、第七十四條ニ規定スル願届ハ營業所所在地ノ所轄警

察署ヲ、第三十八條乃至第四十三條、第七十條乃至第七十二條ニ規定スル願届ハ車庫所在地ノ所轄警察署ヲ、自動車取締令第二十二條及第七十九條、第八十五條、第八十六條ニ規定スル願届ハ所在地ノ所轄警察署ヲ經由シ其ノ他ノモノハ直接當廳ニ提出スヘシ

第九十七條 自動車取締令又ハ本令ノ規定ニ依ル願届ハ別ニ定ムルモノノ外届出事由發生ノ日ヨリ五日内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十八條 自動車取締令又ハ本令ニ依ル願届ヲ爲スヘキ者ニシテ死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戸主若ハ同居ノ家族、法人ニシテ解散シタルトキハ清算人ニ於テ之レヲ爲スヘシ

第九十九條 自動車取締令又ハ本令ノ規定ニ依ル願届ハ願届人ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人、準禁治産者ナルトキハ保佐人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者及未成年ノ運轉手ニ在リテハ此ノ限りニ在ラス

第七章 罰則

第一百條 第四條、第八條乃至第十條、第十六條乃至第二十四條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十三條乃至第三十六條、第三十八條乃至第四十三條、第四十六條乃至第四十八條、第五十一條乃至第六十四條、第六十七條乃至第七十四條、第八十條乃至第八十二條、第八十四條第一項、第八十五條乃至第八十九條、第九十二條、第九十三條、第九十七條、第九十八條ノ規定ニ違反シ又ハ第四十九條、第六十五條第七十五條、第八十七條第二項、第九十四條、第九十五條ノ規定ニ基ク命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又科料ニ處ス其ノ違反行爲ヲ教唆又ハ幫助シタル者亦同シ

第一百一條 自動車ノ運轉手、車掌、助手其他ノ從業員ノ行爲ニシテ營業ニ關シ自動車取締令又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ之ヲ使用スル營業者モ亦其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第一百二條 助手ノ行爲ニシテ自動車ノ運轉ニ關シ自動車取締令、道路取締令、警察犯處罰令、交通取締規則又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ自動車ノ運轉ヲ擔當スル運轉手モ亦其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

第一百三條 本令ハ昭和三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一百四條 大正八年二月警視廳令第八號自動車取締令施行細則ハ之ヲ廢止ス

第一百五條 本令施行ノ際現ニ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノハ之ヲ本令ノ規定ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタル者ト看做ス

第一百六條 本令施行前ニ検査ヲ受ケ現ニ使用スル自動車ニシテ第六條又ハ第二十條ノ規定ニ抵觸スルモノハ昭和三年十月一日迄ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ届出タルモノハ本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一百七條 第七十條又ハ第八十五條ノ規定ニ依リ免許又ハ許可ヲ受クヘキモノニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ昭知三年十月一日迄ニ本令ニ準據スヘシ

昭和三年十二月廿四日印刷
昭和三年十二月廿六日發行

交通土木法規總覽

定價 貳圓五十錢

土木攻法會編纂

編纂兼
發行者

堀江關武
東京市小石川區諏訪町五十五番地

印刷者

奈良直一
東京市小石川區諏訪町五十六番地

印刷所

常磐印刷所
東京市小石川區諏訪町五十六番地

不許複製



六辨武平

發行所

常磐書房

東京市小石川區諏訪町五十五番地
電話 小石川三七七五
振替東京一七七一八五

前大審院長 横田秀雄閣下序
判 事 大橋九平治氏著

菊判背革クロス函入
定價五圓五十錢
(送料二十錢)

土地建物 借地借家 關係判例 並 要義

地上權、抵當權、借地權、土地收用の行政訴訟、區劃整理補償金、水利權、家屋焼失と権利金、造作買取請求權、小作米の請求、永小作權、賃料不拂と家屋明渡等々土地建物及其貸借に關する凡る緊要事件解決の鍵は本書である。

本書は大審院控訴院地方裁判所區裁判所判例並法曹會決議、民事局長回答及學說等最も緊要なる記録を取捨採擇し編者獨創の至便なる索引を附す。

發行所 東京小石川區 諏訪町五五 常磐書房 (電話小石川三七四五 振替東京七一七五八)

再出版 來

土木官 田中 好氏 著

土木行政 完

菊判總麻布表紙函入上製
定價五圓五十錢
送料(内地)二十錢
(殖民地)五十五錢

本書は多岐複雑なる土木行政の法律論と實際論に付逐一列舉詳説したるものにして、道路、軌道、河川、港灣、運河、水道、下水道、公有水流水面、砂防、土木事業に對する國家の助勢政策、土地收用の十一章に分ち法理を釋き手續を關にすること懇切を極む。土木行政の實際を熟掌する士は勿論民間土木事業を企畫經營する士の活指針たり。

土木攻法會編

改訂 增補 現行土木法令

四六判總クロス上製携帶便
定價二圓 送料十錢

最近土木に關する法令中改廢せられしもの尠からず今之を改訂増補して成る收むる處道路、軌道、河川、港灣、運河、砂防、水道、下水道、發電用水利使用、公有水面埋立、國庫補助、土地收用、自動車取締等に關する法律勅令訓令等細大洩れなく蒐集分類せり。ポイント活字を使用し紙数の減少に力めれば携帶便。斯界人士の座右に薦む。

東京 小石川 常磐書房發行所 振替 東京 七一七八

工學博士 市瀬恭次郎閣下序
 工學士 三輪周藏氏 共著
 工學士 島重治閣下閱
 工學士 萩原俊一氏

河川工法

本書菊判背革クロス上製
 附圖菊判總クロス上製
 二冊函入定價五圓送料廿錢

全国各地施行の河川工法總てを網羅す、土臺、籠工、法覆工、法留工、梓類、床工、築堤、水制工、床止工及參考諸表の十章に大別し、各工法毎に施行する個所の適否、施行方法並材料、職工、人夫の所要數量、施工上の諸注意を懇切に説明せるを以て眞に技術者必携の良書。アト紙刷寫眞約百圖及び百七十五頁の別冊「河川工法附圖」を附加す。

工學士 山内喜之助氏著

樋門 閘門

菊判背革クロス上製函入
 定價三圓八十錢送料十四錢

用惡水樋門及び閘門に就て詳述せるものにして、樋門の寸法、取入装置、惡水樋門と霞堤、惡水排除、函形渠、圓形管、異形暗渠及び小なる拱、閘門の定義及び種類、閘門の寸法構造、閘門の給水、閘門扉、樋門及閘門の翼壁及び閘門室側壁等々詳密懇切に説述し、更に「地震と基礎」に就ても論究せり。内容は高等數學なるべくさげ微細なる點迄懇切に説明せるを以て初學者も容易に會得し得べく樋門及び閘門の設計施工に關する無比の好參考書。

東京 小石川 常磐書房發行 振替 東京 八五七

14.
7
426

